○議長 知念富信君 これから本日の会議を開きます。本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりでございます。

開議（午前 10 時 00 分）

日程第 1．会議録署名議員の指名

○議長 知念富信君 日程第 1．会議録署名議員の指名を行います。本日の会議録署名議員は、会議規則第 127 条の規定によって 1 番 玉城 勇議員、2 番 新垣善之議員を指名します。

日程第 2．一般質問

○議長 知念富信君 日程第 2．一般質問を行います。それでは、通告書のとおり順次発言を許します。12 番 赤嶺奈津江議員。

〔赤嶺奈津江議員 登壇〕

○12 番 赤嶺奈津江さん おはようございます。令和 2 年第 1 回定例会、一般質問一番手で質問をさせていただきます。質問に先立ちまして、現在、新型コロナウイルスで亡くなられた方、また闘病中の方にお悔やみとお見舞いを申し上げたいと思います。昨日、沖縄県内でもお一人、海外籍ということですが、またコロナの患者さんが出て、また 10 代の方が感染ということですので、なるべく早く県内でも、離島県、島嶼県ということで、被害が余りひどくならないのかなということも思いますけれども、やはり海外、県外からの観光客と、また赴任等で異動があるかと思しますので、なるべく感染しないように消毒、マスク、徹底していきたいと私自身も思っております。それでは質問をさせていただきます。最初に一括で質問をさせていただいた後に、再質問から一問一答でお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まず初めに 1 点目、町道 10 号線について問う。(1) 町道 10 号線整備を町民への説明会を開催されているが、町民からの要望等はあったか。(2) 歩道の設置について、どのように検討しているか。(3) 住宅の張りつき状況から見て、大名から東新川向け左側に歩道を設置すべきと思うが、現状はどうなっているか。(4) 児童・生徒の通学路にもなっている

が、教育委員会にも安全性について確認したか。

2点目であります。水泳授業の外部委託の検討を。(1) 公共施設の長寿命化の動きの中、北丘小学校校舎はリフォームで延命しました。体育館及びプールについては建てかえの方針が以前の議会答弁でも出ております。財政的に厳しい状況では、実際いつになるかわかりません。そこで、建設費、維持費の点からスイミングスクールへの委託を検討してはどうか。(2) 試験的導入を行い、校舎を含め全体の配置や教員の負担軽減、建設費・維持費について費用の比較検討をしてみてもどうか。以上、2点お願いします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 おはようございます。質問事項1点目の町道10号線について問うの(1)についてお答えします。町道10号線の道路整備については、平成16年度から平成19年度にかけて大名自治会を初め、町議会議員などから要望がありました。

次の(2)と(3)については関連しますので一括してお答えします。現況道路の両側に住宅等が多くありますが、県道240号線への取りつけに伴い、山手側に法線が変更になること、整備に支障となる物件移転を山手側の片方として事業費の縮減を図る、支障物件移転後の残地に再築したいとの地権者の要望などの理由により、県道から東新川に向け右側の山手側に歩道を設置する計画となっております。

(4)についてお答えします。通学路安全推進会議等の事務局会議の中で、東新川の児童生徒の安全を考慮した歩道を設置する必要があるとの意見がありました。そこで、歩道を両側に設置する事業計画変更について、県と検討・協議をしております。以上です。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 質問事項2点目、水泳授業の外部委託の検討について、(1)と(2)は関連でございますので一括での答弁といたします。水泳授業の外部委託については、費用対効果を含め、さまざまな観点から調査をしております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 答弁ありがとうございました。実際この町道10号線については、東新川から大名側に向けておると右側です。山手側ではなくて、住宅が張りついているところということで、歩道が途中まで来ておまして、途中から全く歩道がない状況になってくるのですが、今、既存の歩道が一部整備されているところがあるものですから、実際子供たちがそちらを歩いて来て、そのまま途中まで来て、側道というか、小さい道に入って学校に向かっていく形になっています。また、開邦高校に向けて歩いて行く高校生もい

まして、両側から歩行者がいる形になります。実際私たちも調査のときに行きましたけれども、かなり交通量が多くて危険な場所であると私も認識しております。その中で、今回（１）のほうで説明会といいますか、大名自治会を初め、町議会議員からもあったということですが、この町道整備についての説明会とか、住民懇談会等で要望があったかどうかを確認したいと思います。

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午前 10 時 07 分）

再開（午前 10 時 07 分）

○議長 知念富信君 再開します。都市整備課長。

○都市整備課長 宮城良武君 それではお答えします。住民説明会等の経緯ですが、当初の計画の段階で、平成 22 年に東新川、大名の役員の皆様に計画の説明をしております。先ほど 1 の答弁にありましたように、自治会とか議員の皆さんからも要望がありまして、これを、単独費の中では、到底、事業費とかがかさむものですから、事業化にするための第 1 回の説明を平成 22 年に東新川と大名自治会に行っております。その後において、平成 23 年度に東新川と大名の地権者に説明を行っております。その後、平成 25 年に再度地権者に、平成 23 年度は事業実施のための説明会です。平成 25 年においては、関係地権者を集めて説明会を行っております。行政懇談会の件ですけれども、平成 21 年度の行政懇談会で、この整備ができないかという要望の、懇談会の中で説明がありました。以上です。

○議長 知念富信君 12 番 赤嶺奈津江議員。

○12 番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際私のほうで、歩道の取り付け部分がどこになるかとか、そういったことを聞いたかどうか、区長さんや区民の皆さんに聞き取りをしたら、歩道がつくだろうという、ただそれだけの感覚で、既存のものがあるからそのまま行くだらうぐらいの想像しかなくて、片側、反対側、山手側に行くということは全く知らなかったのです。今の道をそのまま行くと思っていますし、また東新川からすれば、一旦東新川の交差点の部分で渡って、そのまま真っ直ぐ大名側におりてきて、そうしたらまた反対側へ道を渡って、また次の県道を渡ってという形で、同じ直線で行けばそんなに負担ではないのですが、あの交通量が多い中を、途中、子供たちが行ったり来たりするのかと。絶対あり得ないと思います。やはり子供たちは今までの通学路の認識で行きますので、わざわざ、特に雨降りとか危険な状態の中での横断というのは、やはりあり得ないと思いますし、以前、交通量の調査をしたときにも、こんなに細い道でこんなにあるのかと、町も思ったという話

をされていまして、是非これは早期に計画変更を県と協議して行うべきだと思いますけれども、一括で答弁されていますので、県と協議するというものではありませんが、いつごろをめどに、今、予算がかなり減額になっていて、なかなか進んでいないタイミングだからこそ、今できることだと思います。本当に早期にやるべきだと思いますけれども、町の見安としては、いつごろやる予定でいらっしゃいますか。

○議長 知念富信君 経済建設部長。

○経済建設部長 神里操也君 お答えします。昨年来、大名の行政懇談会が平成31年2月にございまして、その席でも申し上げましたけれども、やはり歩道の両側設置要望というのが、大名自治会からもございまして、東新川地区においても、同様に通学路が確保されるということがございますので、片側の計画ではございますけれども、それにつきましては、県のほうとも変更する方向で、両側に設置できる、そういった検討を調整、協議してまいりたいと、早速令和2年度から、補助金の要望とか、また次年度の要望とかございますので、その席とあわせて計画の変更も進めてまいりたいと思っております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。とても前向きな答弁をいただいて安心しました。実際、開邦高校、開邦中学校もできまして、町内からの受験者も、中学生も多くなって、中高、南風原町だけではなくて与那原側からとか、それ以外のところから来る方もいますし、安全だから安心して通えるんです。安心安全ではなくて、安全安心なのです。だから、安全な通学ができるように、きちんと、10号線をせっかく整備するのですから、車のためとか、それだけではなくて、歩行者の安全の確保という部分でも是非お願いしたいと要望して、この質問を終わりたいと思います。

次に、水泳の外部委託の検討ということで、費用対効果も含めてということですが、実際、県外でもプールの再整備の時期に入ってきて、なかなか整備に対する費用の補助とか、維持管理についてはかなり費用負担が大きいということで、外部委託を検討しているところも多く、また実際、委託を試験的に導入とか、文科省でもそれを事例として挙げるぐらい多くなってきていると私も認識しております。実際、千葉県佐倉市では、試験的に導入をして、当初1校から導入したそうですが、今年からですかね、昨年だったか、2校にふやしたそうです。それだけ費用対効果、また民間への委託という部分では、先生方の負担軽減、また授業数がかかりふえてきて、先生方の負担がふえる中で、水泳が専門でない方も多い。実際そういう状態ですので、是非試験的導入を早目にやって進めるべきだと思います。また、北丘小学校は特に、校舎はリフォームということで延命しましたけれども、実際延命であって、近い将来に建てかえがやってくるのです。その前に、プールと体育館は、もともとリフ

オームではなくて建てかえをするという前提で動いておりましたので、それがいつになるのかと、保護者からも声が上がっています。私が校舎の建てかえをお願いして、リフォームが終わるまで約10年近くかかりました。その中で、プールと体育館がまだなのです。その間にリフォームした校舎の老朽化がどんどん進んでいって、建てかえの時期が来るであろうと思っています。そういう中で、人口もふえて、子供たちの児童数もふえて、幼稚園の受け入れも2歳ですよ。4歳、5歳の受け入れをして、今後またこども園の検討もされているところもあると聞いておりますので、校舎の配置、建物の配置、駐車場の配置、いろいろな部分から検討するタイミングとしては、是非委託も入れて、再建するにしても、改築するにしても、プールの場所、体育館の場所をどのようにするのか、駐車場の確保、これはもう議会側からも、教員の駐車場確保は町が行うべきだと留意事項もつけておりましたので、是非早期にやるべきだと思います。この調査については、どのように行っていくのか。含めて検討していきますではなくて、実際、調査に早期に入らないといけない時期だと私は思うのですが、どのように行っていく予定でいるのかを確認したいと思います。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 調査については、議員から提案がありますようなプールの外部委託の部分、それからプールと体育館の建てかえを含めた、PPP/PFIを含めた手法等については、検討をしていくことが必要だと考えています。いずれにしても、先進事例の場所でどういうことが起きているかということでもありますとか、県内でもそういう動きをしている市町村がございますので、その辺をまず調査して、先ほどから言われています、建てかえを含めたいろいろな検討の部分について、いろいろな角度から検討しないといけないと思いますので、我々のほうで知り得る調査も駆使して、まず調査をして、それを内部のほうでかみ砕いた形で、次の計画の策定に役立てていくというところから始めていきたいと考えています。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。いろいろな検討をされていくと思いますが、実際県内でも検討しているところがあると。費用の部分に関して、委託にしても費用が出てくるので、できたら補助金とか助成金とか、そういったものがないのであれば要望するとか、実際、先生方の負担軽減は国も言っていることですので、いろいろなところでのフォローを、県だけではなくて、町長を初め、全国区でお願いしないといけない部分ではないかと思います。沖縄は人口増でありますけれども、県外ではかなり少子化で廃校に近いぐらいの人数で建てかえもできない。反対に釣り堀にした学校もあると聞いていますので、そういったところから学校のあり方というのがどんどん変わってくる時期だし、その

地域にあわせた学校のあり方になってきていると思いますので、これだけ小さい面積の南風原町に4校の小学校、2校の中学校がある中で、子供たちはどんどんふえていく。校舎の配置を含めどうやって検討していくか。北丘小学校の建てかえが目の前に迫ってきているというところで、いい事例になってくれるのではないかと私は思っていますので、早期に対応をお願いしたいと思います。実際、町内には2社の業者さん、スイミングスクールもありますけれども、ほかのところも含め受け入れてくれるところがあるのであれば、そういったところも是非検討すべきだと思います。その点について、町がもし委託をするときの懸念事項があれば、確認したいと思うのですが、どういったところが懸念されますでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 今回の提案の水泳授業の外部委託については、我々も、先進事例のほうに少し目を通させていただきました。懸念事項というご質問だったのですが、先進地もそういう計画をされたときに、まず教育委員会の理解もそうですが、保護者の方への説明、それから理解を求める作業が結構ありました、とありました。費用対効果の部分についても、建築費という形で、長いスパンで負担する費用と、単年度単年度で負担していく費用の部分について、考え方を整理する必要があるということもございました。さらにもう一つは、それを受託する事業所への距離、それからスケジュール等についての問題点が挙げられておりましたが、その辺については、我々は一つの検討しないといけない部分として考えているところで、まずその辺を整理しないと、新たな懸念と言われるようなことになるのかどうかを整理してから、その辺についてはよく考えて進めていきたいと思っています。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、移動手段とか、どうやって行くのかということもかなり心配される部分もあると、私の先進事例の中でもあったのですが、実際、北丘小学校は目の前にスイミングスクールさんもあって、裏道を通れば、階段をきれいに整備すれば、すぐに歩いて行けるぐらいの距離にあるものですから、移動手段としては、ほかの学校に比べてかなり、試験的に導入するにしてもいいのではないかと思います。実際、屋外のプールを使用する際には、雷があるとできないとか、水温は何度以下だとできないとか、いろいろな状況で、水泳の授業でプールを使う時間がかなり厳しいときがあるんですね。特に沖縄は、暑い割には雨天になることが多くて、雷注意報も多くて、晴れていても雷注意報が出るぐらいですので、そういう状況の中ですので、室内の温水プールということであれば、長期的に契約でやって、2時間程度の授業を分割していけば、年中できるような環境にあると思います。そういうこと言えば、雷等での中止もない、先生方の負担もない。また、専門の先生が教えることになるので、水泳の上達もあると。実際、そういう効果

もあると思いますので、是非試験的な導入を早期にやってみて、今後の学校のあり方も検討していただきたいと思います。実際、今、北丘小学校プール、もう間もなく40年ぐらいになると思うのですが、これまで稼働できなかった時期が多分あると思います。モーターが壊れたとか、ポンプの調子が悪いとか、それだけでもかなり維持費的にかかって、プールができない時期もあったと思うのですが、そういったときの対応として、町としてはどのような対応をされていたのか、確認したいと思います。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 私が少し調べた範囲では、基本的に稼働できない状況の故障は記憶にないのですが、事前に、プールが始まる前までには、その辺については、予防策を張って修理をしておく、それから準備をしておくという形にさせていただいていると考えています。ただ、おっしゃるような形で、屋外にありますので、天気の関係上、気温の問題であるとか、雨とかの問題、プールの授業が変わるということは、何度かあったと話は聞いておりますけれども、機械等の故障で長い間プールができないということはなかったと記憶しています。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん いや、実際にはありました。私が覚えている中では300万円ぐらいかかるので、すぐにはできないということで、プールの授業がおくれたか、何だったかはっきりしていないのですが、できない時期がありました。そういったことと言えば、子供たちが楽しみにしていることもできなくなる、授業にも支障を来すということが実際あったのです。結局、モーターにしても、発注して時間がかかりますよね。故障してすぐにはできないとか、またプールの清掃等にもかなり負担が来ていて、北丘小学校は一時期草も生えて、藻もすごいひどくて、先生方が2日ぐらいかけて大掃除しないと使えないぐらいになるというような、周りに草木が多いということで、緑あふれる学校ということではありますけれども、そういったところで維持管理が大変だという部分もありました。そういったものが中に入って故障の原因になっている部分もあったと、私は記憶しているのですが、そういったところからも、外部に委託することで、基本、今の県内の民営のプールは大体屋内ですよ。温水プールが基本ですので、そういった維持管理の部分でも負担が少ないのではないかと思います。県内の小中学校の中には、屋内、体育館の下だったり、いろいろな状況で室内のプールもあるのですが、かなり水温が低くて入るのが大変という部分もあったものですから、南風原中学校は校舎の屋上にあるというところで、ほかのところにもないプールであって、かなり温かくて入りやすいと聞いているのですが、今後、校舎の建てかえがあるときには、プールも一緒に建てかえになるということになりますので、いろいろな観点から、こ

れからの校舎の維持管理、施設の配置、全てを含めて長期的な目線で、子供たちの環境整備をお願いしたいと思います。これで質問を終わりたいと思います。

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午前10時26分）

再開（午前10時28分）

○議長 知念富信君 再開します。

通告書のとおり順次発言を許します。6番 大城勇太議員。

〔大城勇太議員 登壇〕

○6番 大城勇太君 皆さん、おはようございます。そして傍聴席、ネット中継を通してごらんになられている町民の皆様、おはようございます。6番 大城勇太でございます。きょうから一般質問が始まりますが、まず初めに、執行部の皆様、コロナ対策においてご多忙の中、我々議員の要望に応じていただき、心より感謝を申し上げます。3月2日から町内小中学校において臨時休校になり、児童生徒や先生方だけではなく、保護者や学童など、さまざまな方面で混乱が生じていましたが、幸いにも沖縄県南風原町においては、町の迅速な対応により感染がなく、小中学校の臨時休校が2週間程度で解除されました。しかし、新たな感染者も出たことにより、一層気を引き締めていかなければいけないものだと思っております。今回、観光業などにおいては、まだ今も大打撃を与えている中、レンタカー会社も倒産に追い込まれる状況ですので、今こそ国は、平成21年に行われたモラトリアム法、そういった政策の実行もしながら、無担保、無利子、低金利で貸し付けを行い、経済政策を行って、日本の国民の生活を守っていく、これこそが最優先にするべき問題だと思っております。それでは、通告書に従い一般質問をさせていただきます。一問一答でよろしく申し上げます。

大問1. SDGsの目標12（つくる責任つかう責任）の取り組みについて。（1）リサイクルについて、本町はどのような取り組みを行っているか。（2）はえばるエコセンターが行っているリユースについては、本町の見解を伺う。（3）世界で注目されているプラスチック問題について、本町はどのような取り組みを行っているか。（4）食品ロスについての本町の見解を伺います。よろしく申し上げます。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目のSDGsの目標12（つくる責任つかう責任）の取り組みについての（1）についてお答えします。リサイクルについては、収集業者や役場

担当職員による適切な分別の案内を行っています。また、はえばるエコセンターで古紙や古着を使ったリメイク作品づくり、資源ごみ分別施設やペットボトル再生処理工場の見学、フリーマーケットなどを通し、環境に関する情報発信施設として、リサイクルに関する意識の醸成を行っております。

(2) についてお答えします。フリーマーケットの開催、年間を通して行っている幼・小・中学校の学用品や制服のリユースなど、不要になったがまだ使えるものを、必要としている人へ渡す役割を担う事業であると認識しております。

(3) についてお答えします。南風原町一般廃棄物処理基本計画により、家庭から排出されるペットボトルは、資源化物として週1回、回収しております。その他のプラスチック、弁当がら、白色トレイ、洗剤などのプラスチック容器は、燃やすごみとして処理しております。那覇市・南風原町環境施設組合では、燃やさないごみ・粗大ごみとして収集された小型家電や自転車などは、金属とプラスチックに分解し、プラスチックは焼却し、金属は売却しております。

(4) についてお答えします。食品ロスとは、本来は食べられる状態であるにもかかわらず食品が廃棄されることで、具体的には賞味期限・消費期限内の食品や未開封の食品が廃棄されることを意味します。本町では、廃棄物減量の目的で「はえばるリサイクルループ事業」を実施しており、家庭や給食センター、飲食店等から排出された食品残渣、いわゆる食べ残しや調理くずを、はえばる豚の飼料として再利用しております。以上です。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ご答弁ありがとうございます。(1) より再質問をさせていただきます。全国の市町村のごみ分別状況を見ていると、徳島県上勝町で、2020年までにごみゼロ、ゼロ・ウェイスト宣言をし、現在では分別が55種類、ごみの資源化率は85%で、ほとんどのごみをリサイクルしているそうです。本町のごみの分別の種類、リサイクル率などがわかりましたら教えてください。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん お答えします。分別としては、資源ごみ、アルミ缶、スチール缶、そして燃やさないごみ、燃やすごみ、資源ごみはアルミ、スチールもありますけれども、瓶、ペットボトル、そして草木、古布とか古紙、それと廃油、一部の地域によっては生ごみ、食品残渣をリサイクルとして豚の餌とか飼料にしております。資源化としては、平成29年度では21.8%となっております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 リサイクル率は、沖縄県では豊見城、座間味に次いで、本町は3位の二十二、三%です。しかし、全国で見ると、沖縄県は40位の15%しかなく、数年前ですが、OECD35加盟国の中では下から5番目。リサイクルに対しての意識がまだまだ少ないように思います。この上勝町においても、瓶の色まで識別して分別する。燃やすごみにおいては、リサイクルできるプラスチックごみ、そして衣類等もリサイクルをして、糸からまた新しい洋服をつくるようなことをしているようで、まだまだ本町でも取り組めるものがあるかと思いますが、今後、リサイクルに取り組む予定のものなどがあれば教えてください。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん 現行の分別も、県内ではかなり細かくなっているほうだと思います。ただ、意識が低下しては困りますので、町民の皆様と事業所の方々と協力しながら、理解を求めながら、さらに分別を進めていきたいと思っています。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。SDGsの持続可能な開発目標にも、本町も積極的に取り組むべき課題だと思いますので、是非ご検討のほどお願いします。

続いて(2)はえばるエコセンターが行っているリユースについての再質問ですが、昨年のはえばるエコセンターでの制服のリユース、数量などがわかれば教えてください。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん お答えします。昨年は、制服が、幼稚園が38、中学校が199、高校が104ということで、合計341件となっております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。もう一つ質問ですが、この制服、南風原中学校、南星中学校の、高いものは冬の制服だと思いますが、制服の金額がわかればお願いします。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。南星中学校の冬服についてお答えいたします。南星中学校、男子生徒の制服が上下合わせて2万8,230円となっております。女

子生徒の制服につきましては1万9,940円ということで確認をとっております。以上となります。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。中学生においては、この3年間で4回から5回変えたという話もお聞きしました。やはり3万円ぐらいしますので、4回ともなると大分家庭への負担が大きいものかと思いますが、そんなとき、やはりエコセンターのリユースはとても大事になってくるかと思っています。エコセンターでお聞きしたところ、現在、12月時点で中学校の制服の予約数が85点、幼稚園の制服の予約が81点、学用品も含めて約200人近い人が予約をしている状況らしいです。それでもまだ洋服が来ないということですので、予約待ちの方にも、できれば制服、式服、学用品が行き渡るように、本町としてももっとホームページや広報等で呼びかけができるか、よろしくをお願いします。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん おっしゃるとおり、予約の件はこちらも把握していない部分でありました。ただ、広報紙とホームページには不定期で載せておりましたけれども、やはり必要とされている方がいらっしゃいますので、ホームページや広報紙にもさらに載せて、町民の方にご協力をお願いしたいと思います。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。2月の新聞に八重山高校が行っている制服リレーの特集がありました。3月に卒業する3年生やたんすに制服をしまったままになっている卒業生に、制服の提供を呼びかけているそうです。卒業後の制服についてのアンケート調査では、15%が捨てる予定、41%がたんすにしまう予定と回答し、制服リレーについては65%が参加するという意向を示したそうです。やはり、たんすにしまう多くの生徒の理由についてですが、本町からもありましたが、卒業生からも、名前の刺しゅうがあるからなかなか持って行きづらい、そういう声も数多く聞きました。やはり制服に入れている名前の刺しゅうで、本土では、何々さんだよねと、親の知り合いをよそおった男性に誘拐されそうになった事件も起こっている中、全国でも制服の名前の刺しゅうは廃止しているところが結構あるようで、現在では名前のプレートだったり、名前の名札をつけて、学校から帰るときは名札を裏返して、その上からジャージまで着て帰らないといけないという学校もあるそうですので、本町においても、名前の刺しゅうを廃止して、名札などにしたほうがいいのではないかという声がないかお聞きします。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。現状、教育委員会に直接、刺しゅうと
りやめのご意見はございません。名前については、落し物だったり、そういうものを防ぐた
めにふだんから記入したりしているものです。ただ、名前について刺しゅうにするのか、名
札にするのかについては、改めて、校長会とかその辺を通して、意見等を確認してまいりた
いと思います。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。また、希望制ということも可能なのか検討し
ていただいて、実際にまた検討をする間に、リユースとして持って行きたい方、名札、名前
の刺しゅうを外して、名前の刺しゅうを入れるまでに約1,100円かかるとお聞きしていま
すので、そういったものを町として支援できないか、お聞きしたいと思います。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 現在のところ、その辺については考えておりません。その辺につ
いては少し難しいと考えております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 できれば町が、刺しゅうなど、責任を持ってやっていただければ、も
っと持ってくる方もふえるかと思っておりますので、検討をしていただけたらと思っていま
す。中学校1年生の1学期で、スカートが短いから指導を受けた生徒がいるらしいのですが、実際
短くしたのではなくて、成長が早かったために指導されてしまったという話を聞きました。
やはり現実にそのようなことがあるぐらい、中学校の成長も早いのかなと思っております。
ですので、親の負担、家庭の負担、個人情報で身の危険が及ばないように、本町としても対
策をしていただけたらと思っておりますので、是非よろしくお願ひします。

続いて(3)について質問します。世界でも注目しているプラスチック問題ですが、本町
はペットボトル以外、ほとんどが焼却とお聞きしました。名護市ではプラスチックは燃やす
ごみとしてではなく、リサイクルのために、プラスチックを週に一度分別して回収していま
す。主なものとして、カップ、パック類など、弁当などのトレー、フィルム、ネット、そし
てケチャップなどのチューブ類、プラスチック類などは全て、名護のほうではリサイクルさ
れているとお聞きしています。実際、南風原町でもプラスチックはリサイクルできるのかな
と思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん お答えします。リサイクルできるものについては、適切にリサイクルしております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。名護も結構細かく分別しているので、カップ麺にしても、上のふたと下のものは別々のものになったり、ケチャップやマヨネーズのふたとチューブも別になったりという分け方をしていましたので、個人個人の負担はあるかと思いますが、今後もプラスチック問題ですので、是非取り組んでいけたらと思っています。また今回、新聞のほうで要望がありましたので、実際、新聞回収についてですが、ワークプラザ南風さんが回収した新聞の中にも、分別が間に合わなかったのか、業者に持ち込んだ際、結構な量のプラスチック類だったり、中にはCD、雑誌、アルバム、CDのケース、そういうものが入っているということをお聞きしました。現在では大分少なくなっているようですが、そもそも出す側がしっかり分別していれば、南風さんも手間が省けるのかなと思っています。この新聞を縛っているビニールひももプラスチックになりますので、そういった面も、本町のごみの出し方、分け方の中に、新聞、そして段ボールなどは、できるだけ紙ひもを使いましょうと書いているのですが、やはりほかの市町村を見ると必ず紙ひもを使いましょうと書いているので、こういった面も分別して、また南風さんでも、このひもは全部取り除いて、またごみとして捨てなければいけないとやっているそうなので、こういう面でも、必ず紙ひもにという表記にはできないのか、お聞きしたいと思います。

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午前10時46分）

再開（午前10時47分）

○議長 知念富信君 再開します。住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん 先ほどのご質問ですけれども、こちらも南風のほうに確認したところ、そういったことはないということでした。ひもについては、やはり紙ひもというのは、出す方たちの負担がありますので、購入がなかなか難しい部分です。ビニールひもでくびっただいているのは、ばらした後に、きちんと燃やすごみとして分別しておりますので、決してマイクロプラスチックになるという警戒はありませんので、できるだけ紙ひもでお願いしたいのですが、できない場合は今までどおりビニールひもでお願いしたい

と思います。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 業者さんからの話があったので、新聞の中に、ゴミ袋2つ分ぐらいの新聞以外のものが入っているということをお聞きしていただきましたので、これも含めて、本町のごみの出し方のあり方、雨の日には、新聞をビニールに入れてしばって出す方もいるそうなので、雨の日にはまず出さないということも、他市町村ではやっていますので、是非またこれも検討していただけたらと思いますので、よろしくをお願いします。

続いて(4)食品ロスについての再質問をさせていただきます。食品ロスは、先ほどの答弁でもあったように、文字どおりまだ食べられるのに、食べることなく廃棄されてしまう食品のことです。日本の食品ロスは年間約650万トン。この量は、世界で行われている食品援助量の約320万トンの2倍を上回るそうです。世界には飢餓で苦しみ命を落とす人がいる一方で、日本では食料が余りに多く廃棄されているという現状にあります。その原因として、食品ロスの半分は家庭から出ているという調査があります。家庭から出されるごみの中には、手つかずの食品が2割もあり、そのうち4分の1は賞味期限前にもかかわらず捨てられているのだそうです。那覇市・南風原町環境施設組合においても、去年のごみの量が10万3,165トン、そのうちの厨芥類、生ごみが11.5%、そのうち水分が42%あるそうです。ですから、年間のごみの4万トンが水分、そういうことになります。家庭からの45%は生ごみになるそうです。このような状況を解決すべく、海外ではさまざまな取り組みが行われています。食品ロス問題で、先進的な取り組みを行っているヨーロッパを例に挙げると、スペインでは貧困者への食糧援助として、食品ロス削減を目的に、シェアリングエコノミーに近い、日本語で言う連帯冷蔵庫というものが各地に設置されているそうです。この連帯冷蔵庫というのは、冷蔵庫に入れられている賞味期限間近なものを、各地方自治体やスーパー、そしてそこら辺に置いて、必要な人がそれをもっていき、また入れた人も必要なものがあれば交換できるという仕組みを行っているそうです。現在、本町の社協ではどのような食品を受け入れているかお聞きします。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん 社協では、賞味期限前の保存できる食品を、善意の方から集めています。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 いわゆる乾物みたいなものだと思うのですが、そういったものだ

けではなくて、こういう連帯冷蔵庫みたいなものを、本町に設置できる場所があれば設置して、さまざまな食品を受け入れることができれば、もっと多くの食品ロスを減らせるのではないかと考えています。そして、フードバンクや社協と連携をして、みゆき議員の質問にもあるフードドライブも、もっと強化することができるのではないかと考えています。貧困世帯や子ども食堂、福祉施設への支援も、この連帯冷蔵庫、いわゆる冷蔵庫を置いて、みんなが共同で使っていけるものを作っていただければ、おもしろい取り組みだと思いますが、本町では取り組んでいただけないですか。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん 食品ロス対策の件で、連帯冷蔵庫の件ですけれども、現在、感染症、新型コロナの件もありますので、安全面から考えていくと、なかなか厳しいものだと考えております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 コロナウイルスが終息すれば大丈夫だということでしょうか。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん ちょっと説明不足で。感染症だけではなくて、衛生面とかいろいろな問題が絡んできますので、やはり利用される方の健康面とか安全面を考えると、なかなか難しい部分かなと思います。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 海外では、いろいろなものに取り組んでいますので、難しいということではなくて、どうやったらできるのかというものを考えて、是非取り組んでいけたらと思っています。また、一日橋にあるフードバンク、そういった方々の話を聞いて、どういうものが取り入れられているのか、そしてどういうものに取り組めるのかというものにも、本町が取り組んでいけたらと思っています。フランスでは、食料品等を廃棄することを禁止する「食品廃棄禁止法」が制定されました。それによって、各家庭では鶏を飼って、生ごみをその鶏に飼料として活用するプロジェクトや、オーストラリアでは、野菜だけでなくさまざまな食品が集まる無料スーパーなどが話題になっているそうです。そういった小さな行動の積み重ねが、食品ロス問題の解決へとつながっていくものだと思いますので、是非前向きなご検討のほどよろしく申し上げます。

続いて大問2. 本町小中学校の環境整備を。(1) 本町の小中学校の運動場の砂について、周辺住民からの苦情はあるか。(2) また、運動場の球技での周辺の苦情はあるか。(3) 体育館照明はLEDにできないか。よろしくをお願いします。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 質問事項2点目の本町小中学校の環境整備についてお答えいたします。まず(1)でございますが、雨が少なく、強風時には砂ぼこりの飛散に対しての苦情がございます。

(2)です。周辺住民から運動場での球技で騒音や飛球に対する苦情がございます。

(3)です。南風原中学校につきましては、平成27年にLED照明の整備を終えました。その他の体育館についても、照明機器の改修時期に、LED化を進めてまいりたいと考えております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ご答弁ありがとうございます。津嘉山小学校周辺の住民の方々にお話をお聞きして、小学校の砂でクーラーの室外機が故障する、洗濯物が外に干せない、縁側にざらざらと砂が指につくぐらいたまる、そしてひどいときは窓もあけられないという話をお聞きしました。仕方がないことだから苦情は出せないとおっしゃっていましたが、今まで、アンケートなどを行ったことがあるかお聞きします。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。今までに住民の方向けにアンケート等を行ったことはございません。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 今回、私も津嘉山小学校周辺の方々にお話を聞いたのですが、本町は6校ありますので、ほかにも苦情がないのかお聞きします。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん ほかの学校からも苦情があるということは聞いておりません。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 これについて、各学校はどのような対策をとっているのか。そしてまた、スプリンクラーとか防砂ネット、そういう対策は検討できないでしょうか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。現状、学校のほうでは、主に水まき等で対策を行っている状況でございます。現在は防砂ネット等の対策は行っておりませんので、この辺もまた利用者や学校と話し合ったいと思います。スプリンクラーについても、現状ございませんので、こちらについても、可能かどうかという手法も含めて、検討してまいりたいと思います。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。水まきも、多分一日1回やるかやらないかぐらいのものだと思いますので、各部活動においても、部活動をする前にやるとか、そういう対策等も必要だと思いますので、これもまた是非検討して、また周辺住民のアンケート等を是非行っていただけたらと思っておりますので、よろしくお願いします。

(2)ですが、これも津嘉山小学校のことになりますが、実は、小学校の運動場の南側の住民の方、2軒ありますが、そちらのお二方が来て、ボールがしょっちゅう落ちてきて困っているとありました。野球クラブが、謝罪とボールの回収に行ったら、段ボールいっぱいボールがあったということがありましたので、その点について、本町に何かお話などがあったかお聞きしたいと思います。

○議長 知念富信君 教育総務課長。

○教育総務課長 比嘉純子さん お答えします。津嘉山小学校のボールの飛球については、直接苦情は受けておりません。ですが、令和元年11月に、防球ネットのたるみがあったので、その修繕はしておりますので、それ以降、飛球はないと考えております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 私が小学校のネットを確認したら、目視なのですが、現在で何点か穴があいている場所も見受けられましたので、グラウンドのネットは小学校で補修するのか、それとも各スポーツチームが補習するのか、またこれは町にお願いできるのか。そういった

面もお聞かせ願えますか。

○議長 知念富信君 教育総務課長。

○教育総務課長 比嘉純子さん 現在、穴があいているかというところで見に行きました。大きな箇所はなかったと確認しております。小さな修繕に関しましては、話し合いで、野球クラブチームが、自分たちで直すよと言ってくれるのであれば、一緒に見ながら直していただけますし、大きな修繕であれば私たちのほうで修繕させていただいております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。少年野球チームだけではなく、一般の方々にもお貸ししているのです、実際、野球のホームベースの位置というのか、ホームランを打ったらもしかしたらそれを越えてしまう可能性もある。大人がやればそういった可能性も出てくると思うので、それは野球クラブの少年野球だけではなくて、一般の方々にも注意していただいて、お話をさせていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

(3)の小学校の体育館のLEDですが、現在、津嘉山小学校の体育館は電球の交換が必要だとお聞きしましたが、実際にどれくらい消えているのか。よろしくお願いします。

○議長 知念富信君 教育総務課長。

○教育総務課長 比嘉純子さん お答えします。勇太議員から提案があったときには30個の電球があり、30個中11個の照明が切れているということでした。しかし、そのときにはもう修繕の依頼を委託しておりましたので、実際には全部修繕しております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 修繕ではなくて、できればLEDにしてほしかったのですが、実際、私も見に行ったときには30個のうち10個も11個もふえて、3分の1が消えている。前回修繕したのは、多分1年たっていないと思います。1年もたたないのに10個も切れる状態であれば、是非この南風原、そして糸満も小学校ではLED化になっていきますので、LED化にしていったほうがいいのかと思います、交換の順番的に、修繕する前にLED化にしてほしかったという要望をしたかったのですが、そういった面で再度お願いします。

○議長 知念富信君 教育部長。

○**教育部長 金城郡浩君** 現在使っている体育館の電気のほうが、LED対応になっていないということもあって、LED化をやっていないわけですが、LED化については、光の光量の問題であるとか、照度の問題で、そのままLEDにつけかえればいいという形ではないとお伺いしています。我々としても、次の質問にも出てくるのですが、適宜計画的にLED化に向けては進めていきたいと考えています。

○**議長 知念富信君** 6番 大城勇太議員。

○**6番 大城勇太君** できれば、LEDの方向で検討していただけたらと思っています。一般的に、体育館にあるのが高圧水銀灯と呼ぶのだそうですが、ランプの中の水銀が蒸発して明るくなるまで、遅いもので4分から5分かかるそうです。実際に、津嘉山小学校の学力報告会でも、プロジェクターを使用するために、一旦消してつくまでに時間がかかる。また、入学式でも、学校の案内等をプロジェクターで行っていましたので、それが終わった後に電気をつけると時間がかかって、その後の記念撮影の待ち時間が結構あったので、そういった面でも、今後LED化をお願いしたいと思っていますので、ご検討をよろしくお願いします。

最後の質問です。大問3. 那覇空港の愛称を飛び安里空港に。(1) 飛び安里を本町から世界に発信できないか。(2) 飛び安里研究会より那覇空港の愛称を「飛び安里空港」にと町長へ要請があったがどのように考えるか。よろしくお願いします。

○**議長 知念富信君** 副町長。

○**副町長 国吉真章君** 質問事項3点目の那覇空港の愛称を飛び安里空港に。(1)と(2)については関連しますので一括してお答えします。ご質問のとおり、飛び安里研究会から那覇空港の愛称を「飛び安里空港」への主旨で要請を受けております。このような要請を行う際は、町の総意として要請することが重要だと考えております。今定例会において、議会に同様の請願もなされていることから、その結果も踏まえて判断をしてみたいと思います。以上です。

○**議長 知念富信君** 6番 大城勇太議員。

○**6番 大城勇太君** ありがとうございます。議会が否決であれば、否決になりそうな、そういった答弁になっているかと思いますが、実際、今回の要請でさまざまな方々からもお話を聞いた中で、またさまざまな方面からもお話をいただきました。やはりライト兄弟よりも早く飛んだということになりますので、そういったお話とか、東京の公文書館より当時の記録も出てきました。何よりも、愛知県の小牧空港にあるあいち航空ミュージアムに、飛行機の原点は飛び安里と明記がありますので、それも踏まえて、今後検討していきたいと思って

おります。どうか、この一般質問、そして委員会の前に、この空港ミュージアムに行って、いきさつをお聞きしに行こうかと思っていたのですが、コロナの影響で閉館になってしまったので、これが解かれたら行って、いきさつについてお聞きしに行きながら、今回の要請は継続審議になるかと思いますが、これをいいと捉えて、この3カ月間でまたいろいろなことを調べて、どういった場面で那覇空港の愛称としてできるのかを考えたいと思っております。那覇空港の愛称としてできるかできないかというのはわかりませんが、この南風原町から出た偉業ですので、せっかくですから、沖縄県のみならず、本土の方々も取り込んで、関心が持てるいい機会になったらと思っております。

そして最後に、町長に改めて、那覇空港の愛称を飛び安里空港にできないかの要請についてのご答弁をよろしくお願いします。

○議長 知念富信君 町長。

○町長 赤嶺正之君 お答えいたします。この飛び安里の件に関しましては、私事と申しますか、私も若いときにはかかわったことがございまして、要請があったときには本当にうれしかったということが印象として残っております。答弁いたしましたけれども、町として、町への要請ということでございますので、とりあえず町としてどうするかということで、三役会議、あるいはまた庁議で話し合いをしまして、私としましては、先ほど答弁しましたとおり、非常にうれしいことだと。他府県に事例もあることですので、何とか実現できないかと思ったところでございます。幸いにも、本定例会にも要請が出されておりますので、でき得れば、町と議会と二人三脚で要請ができれば、またいいかなと思っておりますので、是非勇太議員のお力添えもお願いしたいと思っております。以上です。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 私だけの力では多分どうしようもないので、執行部の皆様、そして議員の力もかりて、是非実現に向けて頑張っていきたいと思っております。これで一般質問は終わりますが、まず何よりも先に、本町におけるコロナ対策をしていただいて、そしてその一方で、頭の片隅に私の一般質問も覚えていただけたらと思っておりますので、よろしく願います。これで一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午前11時10分）

再開（午前11時20分）

○議長 知念富信君 再開します。

通告書のとおり順次発言を許します。14番 宮城寛諄議員。

〔宮城寛諄議員 登壇〕

○14番 宮城寛諄君 4点の一般質問を行いたいと思います。最初に質問をして、再質問から一問一答方式で行いたいと思います。

1点目に、不祥事の対処について問うということで質問いたします。(1)ここ数年、不祥事が多く発生しているのではないかと思います。どう対処していくか。事が起こるたびに町長を初め執行部は「あってはならないこと」と謝り、再発防止を図るとこれまで言ってきました。しかし、幾度も不祥事が発生しております。同様の内容で不祥事が起こったということはなかったように思うのですが、ただ、見落とししたり、人事異動の原因であったり、それからわかっていながら放っておいた事例まで出てきております。町長の再発防止の決意のほどが試されていると思います。今回の予防接種の通知漏れや、記載ミスへの対応の悪さなどがあります。どのように対策を行うか。答弁をお願いしたいと思います。

2点目に、小中学校教員の過労死ライン超え残業を問います。(1)新聞社のアンケート調査によると、小中学校の教員の残業が過労死ライン、80時間と言われているのですが、それを超えた学校が、県内で少なくとも2,329人と報道がありました。本町においても80時間超えが小学校で116人、100時間超えは小学校が26人、中学校が46人となっておりと新聞で報道されていました。新聞で報道されているのは、ワースト3なのかベスト3なのか、3つか4つの学校しか出ていませんので、それ以外は報道になっておりませんでした。それが事実かどうか。それから(2)80時間超え、100時間超えの理由は何なのか。それから(3)どのように対処していくか。それから(4)解決のための少人数学級を全学年で実施し、要するに先生方の対応する子供たちの人数を少なくすることによって、そういった長時間労働をなくしていくという、そういう対応が必要ではないか。

3点目、豚熱、これまで豚コレラと呼んでいたのですが、中部で発生したけれども、本町の対応はどうなっているのか。(1)養豚業者は町内で何件か。また何頭飼育されているか。(2)本島中部で豚熱が何件か発生しましたがけれども、これまで6例でしたか、本町への侵入を防止するためにどう対処しているか。ワクチン接種などを行っているかどうか。

4点目、南部広域の交通基本計画を問います。(1)南部広域市町村圏事務組合の「ふるさと市町村圏基金特別会計事業計画」というのがありますけれども、その中で新たに「公共交通活性化事業」がスタートします。関係市町村の単独計画や上位計画との整合性と課題等の共有を図りながら、実効性のある計画策定を目指すとしております。その中で、幹線名として那覇市・南風原町・与那原町という幹線名がありますけれども、その3市町の幹線について、本町の案や計画はどうなっているのか。その点をお伺いします。以上、よろしくお願ひします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目、不祥事の対処について問うにお答えします。今回の予防接種の通知漏れとクーポン券の有効期限記載ミスについては、事務処理における重要事項の確認不足や報告、連絡、相談及び上司の業務進捗管理が不十分であったことにより発生したことであります。今後は、複数職員での確認を行うなど、重要事項の確認方法の見直しや報告、連絡、相談及び業務の進捗管理を徹底してまいります。また、職員に対し、公務員としての自覚と責任感を持って職務に専念するよう意識改革を図るとともに、職員研修等を行い資質向上に取り組んでまいります。

質問事項3点目の豚熱が中部で発生したが、本町の対応は(1)についてお答えします。町内にある養豚経営業者は2件で、飼育頭数は657頭です。町外で養豚経営をする町内出身業者は4件で、飼育頭数は1,981頭です。

(2)についてお答えします。中部と南部を行き来する養豚関係業者の防疫対策として、国道58号の道路を通行する養豚関係車両の消毒ステーションが北谷町、同じく国道329号を通行する関係車両の消毒ステーションが北中城村に設置され、そこに町職員を派遣し、消毒の対応と町内の養豚農家に消石灰の配布を行いました。また、ワクチン接種については、県で3月6日から接種を進めております。

質問事項4点目の南部広域の交通基本計画を問うについてお答えします。3市町の幹線として県の計画では、国道329号を新たな公共交通の導入として位置づけられております。新たにスタートする事業において、県を含む関係自治体において協議を進めてまいります。また、本町の総合交通計画については、補助事業を活用して策定してまいります。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 質問事項2点目、小中学校教員の過労死ライン超え残業を問うの(1)についてお答えいたします。平成30年度の延べ人数は、議員ご質問のとおりの内容でございます。

(2)でございます。児童生徒や保護者の方々への教育相談の増加、また中学校においては、平日及び休日の部活動指導が主な要因と考えております。

(3)です。本町では、平成31年4月より業務時間外における電話応答の終了時刻設定の導入、行事の精選や会議等の持ち方を工夫するなど、改善に努めております。

(4)です。本町では、小学校1学年から中学校1学年まで、少人数学級編成を行っております。中学校2学年と3学年につきましては、県の教員配置人数との関係から、県費配置教諭以外に教諭を採用することは、町単独予算での配置となることから、現状としては厳しいと考えております。以上です。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 これまでも、いろいろ対策などをとるといってやってまいりました。今度の答弁で、要するに事務処理における重要事項の認識不足、報告、連絡、相談及び上司の業務進捗管理が不十分であったということ、それから今後、複数職員で確認を行うなど、報告、連絡、相談、そういうことをやっていくということですが、これまでも、そういうことが起こるたびに、そのことを皆さん方は答弁をしているんです。答弁と言ったらおかしいですね。そういうふうに説明をしているんです。複数でやりますとか、チェックしますということをおっしゃっているんです。それができていないというのは何なのかということなんです。なぜそうなっているのか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 これまでも、何度かミスが生じたことは大変申しわけないと思っております。また、そのたびに再発防止を、部課長を通して全職員に、ミスのないようにと伝えてきたのですが、それがなかなか現実に生かされていないということが事実でありました。そのため今後は、再発防止の取り組みとして、業務の進捗管理を徹底できるよう、各職員の業務スケジュール表の作成、また、業務マニュアルを作成し、誰でも引き継げる体制を構築して、再発防止に取り組んでいきたいと考えております。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 誰でも業務が行えるようにということですが、要するに人事異動で変わって、初めてなのでできませんでしたみたいな、そういうことは起こらないということですよ。これまでも、皆さん方、職員同士で、これも前の町長からそういう報告、連絡、相談というのは、これはどこの自治体でも、会社でもそういうことはよくあるのですが、それをやるということによく言われています。ところが、できていないのは何なのかということなのです。私は、例えば、皆さん方は書いてあるけれども、職務に専念できるよう意識改革を図る云々書いてあるのですが、意識改革、要するに職員の意識がないのか。私は決してそうではないと思います。問題は、職場での皆さん方の、仲間同士、上司、一般の職員でしたら班長や部課長にきちんと相談ができる、話ができる、そういう職場になっているのかどうかというのが、一つの原因ではないかと思えます。要するに、これまでも何度か、ちょっとしたケアレスミスで、見間違えたとかいろいろありましたけれども、今回のものはわかっているがやっていないところもあるのです。きちんと相談していれば、早目に解決できたこともあるのです。ですから私は、職場の雰囲気づくり、それが一番大事ではないのかと。意識がどうのこうのというよりも、もちろん仕事の順序というのは、この手順を踏まなければ

ば次の仕事はできないという順序をつくっていけば、必ず相談しないといけないわけですから、それはそれでできると思います。問題は、何かあったときに、大事に至る前にきちんと相談できる、そういう雰囲気なのか。皆さん方は、南風原町役場という職場の雰囲気づくりをどのように考えておられるのか。それと、この雰囲気はいい雰囲気だと考えておられるのか。それはどう考えますか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 役場の、職場の全体の雰囲気としては、まず町長から、毎月のように朝礼で報告、連絡、相談の徹底ということで、訓示があります。また、四半期ごとに進捗状況の確認等ということで訓示もありますが、その中で、各部課長も部下に対して話しやすい雰囲気ができていますと私は感じておりました。しかし、100%ではなかったことから、こういったミスができておりますので、今後、2月10日の部課長会においては、報告、連絡、相談の徹底についての、報告とは、また相談とは、報告の具体的なタイミング、部下へ指示することのポイント、また風通しのよい職場づくりとは何かということで、一字一句、部課長で読み合わせを行い、各職員に周知を図っているところであります。我々部課長も、風通しのよい職場づくりに、今後ますますできるよう取り組んでいきたいと考えております。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 是非そういう職場づくりをしてほしいと思います。私は、何名かの職員から話を聞きました。南風原の役場はどうなのかと。大変ぎすぎすしているという言葉しか返ってきませんでした。その人たちだけかもしれないよ。ほかの人は全然関係ないかもしれない。だけど、そういう雰囲気もあるということなのです。このことは以前から、私は聞かされていました。だからこの間、ずっとそういうのが起こるといことは、やはり報告しにくい、そういう状態をつくっていると。誰も100%、みんながみんなそうなれとは、私は言いませんけれども、少なくともそういう雰囲気で、先ほど言いました風通しのいいとおっしゃっていますけれども、実際に、職員同士が、そして上司に、これはどうなんだと話し合える場をつくらない限り、幾らでもこういうことが起きるのではないかと思います。ちょっとしたミスで終わるところもあるのです。私が調べてみたらいろいろ、これまで起こってきたのは、大分昔の話もあったけれども、例えば、不発弾処理で申請すべきところへ申請しないで事業を行って、あとから精選したらこれは違いますと言われたとか、去年は、ごみ袋が大量に残っていると。それも毎月毎月お金を払っているわけだから、ちょっとチェックすればわかる問題であるし、それから入札の金額を見間違えたとか、とにかく、こういうことが余りにも多過ぎる。そういう意味では何なのかということです。ここは根本的

に直していかないと、私は職場での雰囲気づくり、私はそれが一番大事だと思っています。何も、毎月町長が訓示をすることがいいとは、私は思いません。上からしょっちゅう押しえつけられた、これやれ、これやれと言って、本当にできるのかどうかというのが、私自身もそういうのは余り好きではないですね、訓示だけだったら。問題は職場の雰囲気づくり、きちんと仕事ができる、例えば、残業しても残業代が出ないとか。今は、残業代が出ないのでなく、残業をしないようにと制限させられているのかな、そういうこととかいろいろあるわけでしょう。だから役場でも、そういう働きやすい職場づくりというのを、私はやるべきだと思っています。何も職員の意識を高めるとか、そういうのは、私はそれなりに意識の高さというのはあると見ています。そういう意味でも、是非その辺は皆さん方、これにも書いてあるとおり、今度は是非こういうことが起きないようにやってほしいと思います。

それともう一つは、これまでそういった不祥事があるときに、これは不祥事ではないけれども、コロナの話でも、議員から説明してくれないかということをやったこともあるのですが、何かいろいろあるときは、是非皆さん方から積極的に、物事は議会のほうとも共有すると。コロナのものは不祥事でないですけども、あれはたとえ話で、そういうこともあったのです。ですから、こういう事例が起きたときには、早目に議会のほうにも、新聞報道が出てからではなくて、議会とも共有するというのを是非やってほしいと思います。その点はどうか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 それではお答えいたします。我々も、今回のこの件に関しても、今回はマスコミ報道、町民に知らせることが最優先ということで、マスコミ対応をしましたが、これまでも議会への報告は随時、議会へは素早く情報共有をしていると考えておりますので、今後もさらに議会への情報提供は進めてまいりたいと考えております。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 是非働きやすい職場づくりをやってほしいと要望して、この件は終わります。

2点目に、学校教員の過労死ライン超えということで質問をしたいと思います。新聞報道では、これは2018年度の中身だったかな。ということで出ているのですが、確かに延べ人数だと。少なくとも延べ2,329人だったということが書かれています。このことは、各自治体の教育委員会に調査をして、そこから出てきたアンケートの結果だと見ていますけれども、そうですよね。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。こちらの調査に関しましては、議員がおっしゃられているとおり、今年度の11月25日に、新聞社からアンケートがございまして、そちらに学校教育課のほうで回答した内容となっております。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 ということは、皆さん方も十分このことは承知をしているし、皆さん方が出した資料ですので、わかると思います。延べ人数ということですが、この延べ人数というのは、例えば80時間超え、小学校116人となっているから、10人の方が、10カ月で100人になるわけだから、皆さん方はそう見るのか。それとも10人ではなくて、100人の人が16回プラスで延べということだからそういうことなのか、人数的には皆さん方はどのように見えていますか。例えば学校の職員の、どれくらいの先生方がそういう過労死ラインだと言われている80時間とか100時間超えとか、どれくらいいらっしゃるのか。この人数は延べということだから、実際には把握できませんので、その辺はどのようになっていますか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。実際には、毎月同じ方が超勤している場合もございますし、毎月違う方が時間外の勤務をされている場合もあります。月100時間を超える、勤務される方は小学校で、実際は平均2.1名です。中学校に関しては、大体月3.8名という形になっております。必ずしも延べ人数イコール実人数という形ではございません。合わせて月80時間を超える長時間勤務をされている方は、小学校で月平均9.6名、中学校では月平均8.2名となっております。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 80時間超えが9.6名と8.2名ということは、それなりに多くの方が残業をしているということのようです。それともう一つは、ここで調べている残業時間というのは、実は私たち日本共産党のほうで、全県的にアンケート調査を行っています。その中で、南風原町の方から出てきたのですが、土日の残業が含まれていないのではないかと、それから休みの日は、タイムカードを打刻していないのではないかと。これはきちんと数えられていますかというアンケートがあったんです。やっていないはずよ。南風原町は、新聞にあのように報告しているけれども、この新聞です。もっと多いはずだということがあったのですが、その辺、皆さん方は把握していますか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん 今回、土日祝日を含む先生方の勤務について確認をしております。直接学校のほうに確認をとりました。土日についても、町教育委員会からも必ずＩＣカードによる打刻は行うようお願いはしております。学校の校長先生からも、先生方には、土日についてもきちんと打刻をするようにと、先生方へも周知しております。ただし、部活動等で直接現場に行ったり、そういう形でどうしても打刻できないときがあると聞いております。そのようなときには、後で時間申請をきちんとするようという形をとらせていただいていますので、学校で打刻漏れ等があった場合には、必ず申請するようにと先生方へは伝えるようにしております。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 新聞にもこのように書いてあります。実際には、打刻した後、部活の指導をしている方もいると。これはアンケートの中身でやっていることですが、そういう方とかいろいろとあります。今、答弁で、その数字というのは、正確性があるということですね。要するに土日祝日でも打刻するようとか、打刻しないで、部活をした後でもきちんと報告するようという、皆さん方が把握しているのは、残業の時間はほぼそのとおりだと、信頼していいということによろしいですね。その点の確認と、もう一つは、2点目のその理由は何なのか。その点をお伺いしたいと思います。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん 学校からきちんと報告していただけていると認識しております。その理由としましては、こちらのほうは、土日もしっかりと打刻するよう周知はしておりますし、学校も、先生方にはそれを伝えているということでもあります。

[宮城寛諄議員より「休憩願います」の声あり]

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午前11時48分）

再開（午前11時48分）

○議長 知念富信君 再開します。学校教育課長。

○**学校教育課長 宮良泰子さん** 学校の先生方が時間外の勤務に至る理由としては、やはり大きな理由は、先ほど答弁もありましたとおり、教育相談の増加だったり、部活動指導というのが主な要因だと考えております。ほかの要因に関しましても、やはり通常行っている教育相談以外にも、やはり急に、いじめ問題が発生したりとか、学校内で突発的に発生したときにも、時間外が発生しておりますので、ただ、主な原因としましては、教育相談、部活動等だと認識しております。

○**議長 知念富信君** 14番 宮城寛諄議員。

○**14番 宮城寛諄君** 次のどう対処するかというところで、例えば、学校が終わった後、閉庁のときとか、留守番電話を設置してやるとか、行事の精選とかいろいろ書いてあるのですが、大体は県から週に一日の定時退勤日とか、学校閉庁日とか、部活休養日とか、そういうことをやったらどうですかと、県からはいろいろあって、その中には、各自治体では、勤務時間外の留守番電話、これは本町でもやっていることですね。学校閉庁の設置とか、事務作業の簡素化とか、支援員の配置、学校行事の精選、ノー残業、ノー部活デーとか、そういうものもいろいろやっていますとかあるのですが、南風原町でもそういうことをやっていらっしゃるのかどうか。その辺はどうですか。

○**議長 知念富信君** 学校教育課長。

○**学校教育課長 宮良泰子さん** 南風原町でも、時間外のメッセージの電話の導入、それから夏休み、夏季休暇中の学校閉庁日の導入、中学校においては、ノー残業デーや、部活動を休む日を設けたり、そのような工夫もしております。

○**議長 知念富信君** 14番 宮城寛諄議員。

○**14番 宮城寛諄君** 例えば、そういうふうに学校で対策をとっていても、そのことを守らずというのか、ノー部活デーなんだけど、全部部活をやっていたとか、早目に帰りましようとか、いろいろ、閉庁日とか、そういうときにも出勤していたとか、そういうことも実際にあるのですか。

○**議長 知念富信君** 教育部長。

○**教育部長 金城郡浩君** この辺については、先生たちのほうでも、仕事の進め方を効率的に進めるために、弾力的な運用も一部行われていると思います。ですから、必ずしもノー残業デーであるとか、そのときに全員いなくなるということではなくて、次の業務を効率的に

進めるために、そういうところで、出勤されている先生もいると認識しています。ただ、質問の中で言っているような、これは校長先生とか、計画に基づかずに、言うことを聞かないでということではなくて、その辺については、自分の仕事の効率的な運用のために、そういう方がいらっしゃるという認識でございます。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 ということは、皆さん方で、教育委員会なのか各学校なのかかわからないですが、そういう取り決めというか、そういうふうにして残業を減らそうとなっている中で、この先生方が、次の授業の準備のためとかで残業をします。それから部活のときにも残業をしますとか、教育相談の増加というのはあるけれども、この8名、6名という人数なのですが、その皆さん方は、80時間超えの残業をしていると。やらざるを得ない残業なのか、それとも職員が勝手にと言ったらおかしいけれども、要するにそれだけ忙しいから残業が80時間も超えるようなことになっているわけでしょう。もっと残業を少なくするにはどうすればいいですか。これまでもいろいろ対策をとってやっているけれども、部活や相談、ノー残業デーなのか、閉庁とかいろいろ、ノー部活デーとか、そういうのがあったとしても、これだけ超えるということは、どう対処するのですか。その辺をお聞きしたいと思います。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 今の質問の中の、ノー残業デーを設けたり、ノー部活デーの中で、自分の作業を効率的に進めるために出てきた先生が、イコール100時間超えであるとか、80時間超えであるということではないです。逆に、効率的に業務を進める先生ほど残業は少ないと考えています。80時間超え、100時間超えの部分については、学校には学校長、それから教頭を含め主任の先生方が、現場の確認をできる方々がいますので、その先生方がその辺の相談、それから指導をしながら、なぜそういうことになっているかということで、相談を受けながら、学校でもそういう対策をとっていくということでございます。

[宮城寛諄議員より「休憩願います」の声あり]

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午前11時56分）

再開（午前11時57分）

○議長 知念富信君 再開します。14番 宮城寛諄議員。

○14 番 宮城寛諄君 ということは、効率的に行っているという皆さん方は残業が少ないと。効率的にやっていないから残業が多いということによろしいのですか。小学校での8人、中学校で6人となっているのですが、この皆さん方は業務があつて、この業務を効率的に行っていない、そのことが原因だと、皆さん方はそういう見方ですか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 先ほどから答弁もありましたように、教育の相談のことであるとか、部活であるとか、そういうことが主な要因になっているという認識はございます。同様に、会議に時間が割かれている部分については、学校でも会議をコンパクトに進められるような工夫であるとか、教育委員会も含めて事業の精選をするということで、負担になっているであろうという部分については、全体で工夫をしていくということでございます。

○議長 知念富信君 14 番 宮城寛諄議員。

○14 番 宮城寛諄君 教育相談とか部活とか、そういうことで80時間超えの先生方には、みんなでそれを分かち合つて、少なくしようと。今、そういう努力をしているという答弁ですよね。これまで、この先生方はそういうことはやっていなかったと。教育相談とか部活とかいろいろあるのしょうけれども、そういうことで80時間超え、100時間超えというのがあつたと。それは、これまではそういったのは放っておかれたと云えばあれがあるのでしょうけど、その辺の相談は全くしてこなかったということなのかな。以前からやっているけれども、なかなか直らないということなのかな。その辺はどうですか。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 先ほどから、効率的な業務というお話がございしますが、特に学校というのは、生徒と教師、そして保護者、全てを効率で片づけられない部分が非常に多いということでございます。きょうはなかった問題が、あした起きる。これに何時間かかるのが事務量なのかが妥当ではない。事務処理だけではない職場であるというのをご理解いただきたいと思ひます。ただ、相談という業務なのか、きょう、うちの子供が帰つてこないんだがというのを、実際は16時、17時に先生方が、あすの授業の準備をしているときに、この電話がかかってくる。先生も一緒に探したりするというケースもございします。なので、通り一辺倒のことを言ひますと、ここからは教員の仕事ではない、ここは家庭に任せるといひのが、きちんと線を引けないのが今の学校の現状です。ここは地域に任せましよう、親に任せましよう、これが教員だといひのができないといひのが学校の実情であるといひのは、ご理解いただきたいと思ひます。なので、事務処理のような効率とか、非効率とかに踏み込めない業

務が、教員という仕事の現状であるということです。それはご理解いただきたいと思います。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 わかります。学校の先生方はそれだけではないというのは。今おっしゃったように、例えば、子供の安否を気遣っていろいろ探すということもあるでしょう。ただ、確かに効率がいいとか悪いという、よし悪しの問題ではないということはあるのですが、例えば担任の先生方だと、私はそういう子供たちのあれだと思のですが、そういう教員の皆さん方というのは、これからもそういうことがあり得るということですよね。80時間超えが。要するに、事務としては効率よくやっているけれども、そのほかのものがあるわけだから、そういった長時間残業になると、今の教育長のお話はそのように受け取りましたけれども、ということは、今後もそういうことがあり得るということではよろしいのでしょうか。そのように考えていいと。先生の仕事ではないというところまで、ずっとかかわってきて、そういうことはあり得ると。そういうことでしょうか。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 効率的にできる業務、それについては、会議における資料の事前の配付とか、グループでできる会議はグループにして、全体の職員会議をなくすというのは、各校長が中心になってやっているということでございます。ただ相談、生徒に教育をすることが学校の仕事でございますので、やはりそういったことはどうしても残っていくだろうと。現在、議会からもいろいろ提案があったりするコミュニティスクールとか、地域の人が入って、その辺をうまく補完できる場所があるのかとか、そういったことです。ご父兄の方にもご理解をいただいて、勤務時間以降の、本当に緊急ではない電話はお控えくださいという文章を流したり、留守番電話にしたりということの対応はしていきます。ただ、どうしても事務処理の電算化とか、そういったことでの効率化は図れると思うのですが、やはり子供たちがいますので、個々への相談としては、担任しかできない仕事はどうしても残っていきますので、きちんと線引きができない部分は、やはり学校というのは残っていくと。ただし、先ほどから申しているように、地域の力とかスポーツ、部活の、きちんとした委嘱を受けた外部の指導員での補完による教員の業務の軽減ということは、今後、我々が中心となって進めていくことになると思います。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 よくわかります。外部の力をかりたりいろいろやるというのは。ただ、先生方が父兄からの相談とか、そういうのに対応するためにこういうことがあるという

ことは、今後も起きるということなんですよね。地域のコミュニティスクールとか、いろいろ外部の皆さん方の力をかりて対処する方法もあるのですが、担任教師としては、やはりそれだけの、子供たちの安全を守るということで、そういうことも起こり得ると私は受け取りました。

3点目の対策はいいとして、4点目に、少人数学級云々のところも質問をしているのですが、そういったものをなくすためにも、担任の先生方が持つ、見る人数をもっともって減らしていけば、その対応というか、その時間というのが少なくなるのではないかと思います。今は、南風原小学校が35人学級で30人に行っているのかな。それから中学校は40人か、規定は45人か。35人までやっていると思うのですが、その辺は是非少人数学級にしてでも、答弁では予算のことから厳しいとなっているのですが、その辺のことをすることによって、そういった残業をなくしていくこともできるのではないかと思いますけれども、いかがですか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。まず、少人数学級につきましては、基本的に小学校から中学校まで標準学級が40名となっております。本町の小学校1年生と2年生につきましては、30名学級で編成しております。小学校の3年生から中学校の1年生までは、35人学級編成を現在行っております。少人数となっていないのは、中学校2年生と3年生です。そちらのほうが標準の40名学級で編成されているという形になっております。当然、子供たちを見る人数が減れば、相談等も減るということになるとは思いますが、町では、そのような対策、先生方の負担を軽減するための対策としまして、スクールサポートスタッフの配置だったり、教育相談の時間を少しでも軽減するように、各学校に心の教室相談員等の配置を行いまして、対応等を行っている状況でございます。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 少人数学級の件は、皆さん方が財政の問題でできる、できないという話ではなくて、県にも要請するとか、いろいろ対策をとってほしいと思います。毎年毎年、先生方の組織から30人学級にしてくれと陳情も上がっています。是非その辺はお願いしたいと思います。

それから豚熱のところでお聞きしたいのですが、町内業者もいろいろいらっしゃるわけですが、ワクチンの接種をやっているのですが、3月6日からと答弁があったのですが、これは今月中にできますか。来月、それとも5月までかかるのか。私は早目にやるべきだと思うのですが、南風原町の皆さん方のものはいつまでにできるのですか。

○議長 知念富信君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城克彦君 南風原町の養豚農家への接種は、あさって、3月26日と4月3日の2日間を予定してまして、4月3日で、南風原町の養豚業者の接種は終わる予定になっています。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 わかりました。獣医さんが少ないということで、なかなか難しいようですので、この辺は計画どおり進めてほしいと思います。

それから、南部広域の交通のことですが、南風原町の計画を、補助事業を活用して策定していくということを書いたのですが、補助事業がなかったらやらないということなのか。これから補助事業を探して策定するということなのか。私は、3市町で同じテーブルで、いろいろとどうするかという意見を出すのであれば、南風原町の考え方を持っていないと、テーブルに乗らないと思うんですよ。新聞で見たのですが、那覇市は出してあります。与那原町もLRTか何かでやるということをやっているみたいですがけれども、南風原町もそれなりの策定を、補助事業がどうこうではなくて、きちんとLRTにするのか、それはわかりませんが、LRTの関係で、私はそれをやれということではありません。ただ、南風原町の考え方をきちんと持っていないと、同じテーブルにつけませんということを言っているのです。だから、補助事業云々ではなくて、ぜひやってほしいと思います。

○議長 知念富信君 まちづくり振興課長。

○まちづくり振興課長 金城政光君 お答えします。交通計画が与那原町、那覇市のほうは作成されております。ただ、この交通計画は南風原町の交通はどうあるべきかというものの基本計画でありまして、それは当然作成すべきものだと考えております。今回の国道329号の那覇から糸満に向けての新たな交通計画というのは、これにつきましては、県のほうで位置づけされております。交通計画で南風原町がこっちに何を、LRTにするとか、こういうのを決めるというまでには至らないと思います。要は、那覇市、与那原町も交通計画はございますけれども、これはどうあるべきだというものはあると思いますけれども、それで、南風原町ですぐLRTにするとか、こういうものではないんじゃないかと思っています。要は、南風原町の総合的な交通はどうあるべきかというものの基本計画を策定するものであって、仮に南風原町でそういう計画があれば、それは当然いいことではありますけれども、それでもって南風原町はLRTに決まっていると、そういうものにはならない計画だとは思っております。以上です。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 私もここはバスにしないで、LRTにしないでとか、そういう話をしているのではないです。南風原町も持っていないとだめですよ。この前、11月13日に路面電車を基幹交通にということで、那覇市の計画が出たということで、今のバスターミナルのほうから寄宮を通過して基幹病院まで、それをLRTで結ぶんだということが出ています。そうしたら、その次に南風原町もつなぐのかと。南風原町としてもしやるとすれば、これまでの話だと、国道329号をやるという話はあったけれども、与那原とかは。南風原はあったかどうかわかりません。でもそういう話をしていたのです。そういう話も、私は飛んでしまうのではないかと。那覇市がそういうふうによれば。だからその辺を南風原町はどうするんだということ。早目に計画をつくるべきだということを、私は提案したいです。補助金がどうのこうのではなくて、南風原町はどうするというのを、是非計画を早目にやって、3市町の会議に臨んでほしいという要望です。その点をもう一度お願いします。

○議長 知念富信君 まちづくり振興課長。

○まちづくり振興課長 金城政光君 交通計画の必要性は十分認識しておりますので、早目にできるように努力していきたいと思っております。

○議長 知念富信君 14番 宮城寛諄議員。

○14番 宮城寛諄君 頑張ってください。終わります。

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午後0時14分）

再開（午後1時28分）

○議長 知念富信君 再開します。

通告書のとおり順次発言を許します。8番 照屋仁士議員。

〔照屋仁士議員 登壇〕

○8番 照屋仁士君 それでは午後の一般質問に移りたいと思っております。新型コロナウイルスの影響により、町内も各学校が休校措置を取るなど、行政当局の皆さんにおかれましては、さまざまな検討、そして速やかな実行ということで大変だったと思っております。また、あわせて

町民の皆さんの生活には、現在でも大きな影響が出ております。一日でも早い事態の終息を願いつつ、私たち一人一人にできることをそれぞれに取り組んでまいりたいと考えます。さて、前回も時間オーバーで、質問が途中で切れてしまいました。時間内で終われるよう、簡潔に要点を絞って質問しますので、執行部の皆さんにおかれましては、時間制限がありませんので、この議会中継を見ている視聴者の皆さんがわかりやすいよう、丁寧な説明をご配慮いただきますようお願い申し上げます。

1点目に、神里ふれあい公園に健康遊具と東屋を、です。公園は、言うまでもなく地域の憩いの場としてだけでなく、町内外からも利用者が訪れるなど、にぎわいもある身近な施設であります。また、ウォーキングやグラウンドゴルフといった健康づくりの一端も担い、医療費抑制にもつながっているかもしれません。町民の求める公園整備の観点から質問します。(1) 町が管理する公園で、健康遊具と東屋が整備されている公園はどこか。またその目的は何か。(2) 町内の公園にはできる限り東屋を整備し、過ごしやすく、健康遊具設置でより多くの世代が利用できる環境を整えてほしいかどうか。お願いします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目の神里ふれあい公園に健康遊具と東屋をの(1)についてお答えします。健康遊具と東屋が整備されている公園は、本部公園、宮城公園、黄金森公園の3公園です。健康遊具の目的は、いつでも気軽に個人の体力にあわせた運動が可能で、日常生活での健康づくりを主な目的として設置しております。東屋の目的は、公園内で休憩などをする目的として設置しております。

(2)についてお答えします。公園内の東屋及び健康遊具は、公園事業の国庫補助金を受けて設置したものです。公園事業が完了した公園では、東屋、健康遊具のみを設置する公園事業での補助項目がありません。町単独費での設置となると多大な費用がかかるため、別の補助金等で整備事業があるか検討してまいります。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 健康遊具と東屋について、その設置の目的を答弁いただきました。そしてまた、町内の公園でも、あるところとないところがある。この答弁からいくとそのように見えます。やはり必要があって設置されていると思います。また、必要があれば、町民の要望にも応えていただきたいと思います。それぞれ、町内には、今答弁された公園以外にも、町が管理する公園がありますけれども、それぞれどんな要望等があるか、教えていただければと思います。

○議長 知念富信君 都市整備課長。

○都市整備課長 宮城良武君 それではお答えします。今、質問にありました町内の公園においての要望等であるのですが、今現在において、特に要望とかはございません。ただ、前回の議会の一般質問の中で、ドッグランが公園内でできないかという要望等がありました。それ以外に関しては、特に要望等、問題点に関しては、各公園とも、本部公園に関しましては、平成2年に開園となっています。開園して20年ぐらいになるものですから、黄金森総合公園においても、今、事業化をしてはいるのですが、施設の劣化等による整備、この事業に関しては長寿命化計画を立てまして、整備しまして、再整備というか、そういう事業でやるというのを目標にやっています。ただ、遊具に関しても、問題点というかどうしても年数がたったら、耐用年数とかの問題で、劣化とかの危険度が増すものですから、その辺を、令和3年から長寿命化計画を入れまして、また再整備に向けて事業化するという感じで考えております。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 できるだけ、公園と言っても、用途とか補助事業によって設備に差があるわけですから、是非とも地域の要望を酌みとっていただきたいという趣旨です。そういったところでいくと、今言ったような再整備ということもありますけれども、その中で、もともとなかったものも、そして必要なくなったものもあるかもしれません。そういったところでは、町民の要望を聞いていってほしい。そういう趣旨で質問をしていますが、そのような考えでよろしいですか。

○議長 知念富信君 都市整備課長。

○都市整備課長 宮城良武君 お答えします。先ほど申しました長寿命化計画の中で、再整備ということになりますと、現在ある遊具の取りかえというか、今あるものに対して、同じようなものを置くという基準がありまして、例えば、当初からないものに対しての長寿命化で新しいものをやるという事業はございません。答弁にもありますとおり、補助事業のほかの交付金等で、東屋だったりとか、健康遊具を、要望があれば設置できるようなメニューを検討してまいりたいと思っております。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 今あるメニューと、今後検討できるメニュー、それも含めてのお願いですので、そういった中で、各地域の公園、これからも地域によって事情があると思います。例えば、私の地元でいくと、神里ふれあい公園ですけれども、現在、東屋も健康遊具もありません。そういった中で、ウォーキングコースとか新しい子供の遊具は整備していただきま

した。やはり未来に向かって、できるだけ地域の要望をかなえてほしいという趣旨で、例えば神里ふれあい公園に東屋、健康遊具を設置できないか、検討いただけませんか。

○議長 知念富信君 都市整備課長。

○都市整備課長 宮城良武君 お答えします。質問の中の(2)でも回答していますとおり、東屋とか健康遊具に関しては、1 貴当たりの費用が大分かさむものですから、回答の中にもあるように、補助事業のメニューを確認しながら、できるだけ要望に応じていきたいと思っております。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 すぐにとということではありません。当然、メニュー、効率、さまざまな要望、これは町内各地で状況が違うと思いますので、是非とも地域の要望を聞いていただきたいと思います。

次、大きい2番に移ります。借金財政は好転したかであります。この3月定例会は、非常に大きい新年度予算を扱う予算議会であります。昨年にも増して厳しい予算審議をしているなど実感するところであります。また町長は、先頭に立って身を切る姿勢を示していますが、それでも町民へは丁寧な説明が求められます。それは当然、私たち議会も同じであります。さまざまな事業の見直しや補助の削減に対し、町民からたびたび疑問の声が上がり、その都度、私たちが説明をしておりますけれども、果たして、町民の求める行政運営に近づいているのだろうか、そういったことがまだ道半ばだなと思います。その進捗について伺いたいと思います。(1) 中期財政計画が2017年11月に示されました。現在、計画に基づいた緊縮財政が続いています。そもそもこの計画の背景と目指すものは何か。(2) 課題と目標として、国保の赤字解消、歳出削減、新たな自主財源の確保が挙げられています。それぞれ解決・達成する見込みかどうか伺います。(3) この計画の一番の問題点は、財源の確保だと考えます。具体的にどう取り組むかお答えください。以上3点お願いします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項2点目の借金財政は好転したか。(1)についてお答えします。中期財政計画策定に至った背景は、子育て支援や福祉などの扶助費が急速に増大するなど、義務的経費の増が見込まれる中、国民健康保険特別会計の累積赤字が、平成29年度末で16億円を超える見通しとなったことから、計画的に赤字解消を図るため策定しております。

(2)についてお答えします。中期財政計画の柱である国民健康保険の赤字解消について

は、平成 30 年度までに 13 億 8,700 万円の解消を図りました。歳出の削減については、内部的経費の削減や優先度の高い事業の選択などを行ってまいりました。自主財源の確保については、ふるさと納税の推進や町有財産の貸し付けなどで成果がありました。

(3) についてお答えします。まず、徴税については、現在県内でも高い徴収率を維持しておりますが、今後も徴収率向上と水準の維持を図り、自主財源の安定確保に取り組みます。また、ふるさと納税の推進や南風原南インター周辺土地利用計画の推進など、地域・企業の活性化や企業誘致につながる取り組みの強化、さらに民間を活用した保有資産の有効活用やネーミングライツなどによる、新たな自主財源の確保に向けて取り組んでまいります。以上です。

○議長 知念富信君 8 番 照屋仁士議員。

○8 番 照屋仁士君 それでは、財政のもので、町民の皆さんには非常にわかりにくい点もあると思いますので、一つ一つ確認していきたいと思います。また、この定例会、施政方針とあわせて中期財政計画以降の、その期間は重なっています。第 3 次財政健全化計画、これも出されました。本来であれば、これに含まれている内容が多々あるのかなと思いますけれども、質問当初は、中期財政計画でやっていますので、含まれているものは含まれている、こうするものはこうするというふうに答えていただければと思います。まず最初に、中期財政計画でいきますと、8 ページ、9 ページには期間中の主な事業一覧ということで、このように表があるんです。その中には、国保の赤字にかいする繰出金、期間中継続 6 億 8,700 万円とか、また、伝統工芸後継者育成事業は平成 33 年までとか、期間と数字が書かれています。この期間と数字については、第 3 次健全化計画には載っておりません。もともとこれの意味するところ、それはどういうことなのか、少し教えていただけますか。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 お答えします。中期財政計画期間中における主な事業一覧で、この期間計画は、平成 30 年度から令和 4 年度までの 5 年間で、今おっしゃられました部分については、平成 33 年度で終わる部分については、それまでの合計金額で、5 年間にあるのは総事業費の合計の見込み額となっています。以上です。

○議長 知念富信君 8 番 照屋仁士議員。

○8 番 照屋仁士君 ここでは、さまざまな区長会の事務委託事業とか、団体への補助金とか、各種事業が書いてありますけれども、第 3 次健全化計画ではこれがなくなっています。これは生きているのですか、いないのですか。教えていただけますか。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 この事業一覧における 5,000 万円以上の事業としてやっています事業については、継続という形になっています。以上です。

○議長 知念富信君 8 番 照屋仁士議員。

○8 番 照屋仁士君 それでは、詳細についてはたくさんありますので割愛したいと思いますが、そもそも、中期財政計画が立って、これは5年計画なのですが、2年も経過した後、すぐにまた新たな計画が発表されています。期間は、第3次財政健全化計画は3年ですので、ちょうど中期財政計画の終わりと重なるわけですが、そもそもこの中期財政計画、1ページのはじめにというところを見ると、なぜこれをつくらないといけなかったかということが書かれていますが、地方財政は、社会情勢の変化や地方財政制度の動向などにより大きく左右されますという記載があります。子育て支援や福祉などの扶助費が急速に増大している等の記述もあります。また、本町においてはインフラ整備に伴う町債の発行が高水準で続いたともあります。この文面を読むと、もっともに聞こえますけれども、しかしながら、その選択をしてきたのは行政でありまして、また、それを認めたのも私たち議会であります。つまり、その上でこの部分から読み取ると、そうは書いているけれども、これまでの財政政策、立て直すための計画をつくらないといけないうらい、失敗だった、そのようにも読み取れるわけですが、いかがですか。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 お答えします。人口増加に伴う扶助費の増加やインフラ整備に伴う町債発行の増は他市町村も同じ状況であります。町民サービスの向上を目指し、地方財政制度の動向に注視しながら、各事業に取り組んでおります。本町の厳しい財政状況の要因としては、国民健康保険の制度改正に伴う累積赤字によるもので、財政政策の失敗ではないと認識しています。

○議長 知念富信君 8 番 照屋仁士議員。

○8 番 照屋仁士君 今、国保の赤字を挙げていただきましたけれども、制度的な問題としてきました。国保の累積赤字は平成 29 年度末に 16 億円を超えました。私たち議会も、その制度的問題ということを理解した上で、制度改正への裏づけとして、赤字の見える化を容認してきました、しかしながら、結果として、一般会計から繰り出して、結局返さないといけない。国による措置はわずかしかなかったわけです。全額解消に至らなかった。そういつ

たことを踏まえると、結果としては間違っただと。町民の皆さんにわかりやすく言うなら、判断を間違っていた。そのようなことが言えるのではないのでしょうか。見解を教えてください。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 お答えします。沖縄県では、沖縄戦の影響で前期高齢者の割合が全国より極端に低くなっているため、結果的に制度への加入者が少なくなり、前期高齢者の割合に応じた交付金が全国より少なくなっています。このような状況を明らかにし、制度改正を要請するための手法であったと認識しています。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 見解の違いだと思います。私は正直に、私も制度的と思っていたけれども、結果的には返さないといけなくなった。ですから、これまでのやり方、結果ですよ、結果は間違っていたと認めないといけないのではないかと思っています。そもそも、今言う中期財政計画が、そういった過去の反省に基づいて、今後改めていく、そういう姿勢じゃないといけなかったのではないか。そういったことでは、この第3次健全化計画に生かされていると思いたいのですが、やはり反省のもとに新たな計画、実行をしていく、そういった姿勢が必要ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 お答えします。今回、中期財政計画を見直して、第3次健全化計画に至った経緯につきましては、今後、新たに負担が見込まれる事業として、会計年度任用職員制度導入による人件費の増であったり、東部消防庁舎建設等に伴う負担金の増、そしてもろもろの扶助費等の増が見込まれたものですから、中期財政計画を改正して、新たに第3次健全化計画を同じ期間でという形で改正したものであります。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 繰り返しですけれども、この厳しい財政状況下を、どうやって町民の皆さんに理解していただくか、そういった視点で質問をしています。行政側の立場は非常にわかります。しかしながら、私は、反省すべきは反省して、具体的な取り組みを進めるべきだという観点で言っていますので、認識が違うところはしょうがないと申し上げたいと思います。

2点目に移りますが、国保の赤字についてもありました。どのように解決していくのか、

これが課題であります。施政方針では、令和元年度で赤字は解消するとあります。しかしながら、昨年度の税率引き上げも、この税率改正という読み方一つとっても、町民の皆さんにとっては上がるのか、下がるのか、そういったことが見えにくい、実際にどれぐらいになるんだ、もちろん試算も出していただきました。やはり、そういった中でも町民の理解が進んでいるとは、私もなかなかまだ足りない部分があるという観点です。今回以降の赤字解消についても、ぜひ町民の理解を得ながら、税率の改正、これから検討されるわけですから、そのように理解を得られるような進め方を再度工夫していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 国保年金課長。

○国保年金課長 高良星一郎君 お答えします。税率改正につきましては、これまで同様に、毎年検証していき、毎年試算シミュレーションの後に判断を下していくということになります。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 今、(2)の個別の課題に移っていますが、かみ合っているような、かみ合っていないような、よくわからないのですが、1点ずつ、もう一個確認をしていきたいと思います。この中期財政計画の6ページ、7ページからいくと、歳出の削減という点で幾つも挙げられています。まず1点目に、個別、具体的なことで聞きたいのですが、人件費の抑制について、何を幾ら削減したのか教えていただけますか。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 お答えします。人件費の抑制については、令和元年度より町長の給料20%、副町長、教育長の給料を10%削減し、339万4,000円の削減、管理職手当を50%削減し、659万3,000円の削減、職員の時間外勤務手当を50%削減し、2,463万円の削減、特殊勤務手当支給停止による66万7,000円を削減し、合計で3,529万4,000円の削減となっています。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 次に、建設事業費についてはどのような抑制がなされたのでしょうか。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 事業の優先度等を加味して、平成30年度予算と令和元年度の予算との比較では、普通建設事業で4億1,119万6,000円の減となっています。その中で、町道5号線道路整備事業を凍結したのも入っております。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 扶助費の見直しについては、どのような部分があったか教えていただけますか。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 令和元年度、今年度ですが、医療費助成事業において、入院食事療養費の廃止、条例等の改正を行いました。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 次に、補助金の適正化ですけれども、現状の予算措置がこれからも続く、もしくはもっと削減していく、どのようなお考えですか。教えてください。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 お答えします。既存の補助金については、長期固定化にならないよう、補助金の当初の目的、効果、重要性等を精査し、必要に応じて見直しを行うということを考えています。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 事務事業の見直しについてはどう進んだのか、効果と金額、あれば教えてください。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 事務事業の見直し等についてですが、例を挙げますと、平成30年度に町社協に委託していました栄養改善事業委託につきましては、予算ベースで

747万円でした。平成31年度に民間委託という形で、食の自立支援サービス事業として、予算額で350万4,000円、効果額としては396万6,000円の減額になっています。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 次に、業務改善による経費削減の具体例と削減金額についても教えていただけますか。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 お答えします。ペーパーレス化の徹底や、事務用品等の再利用、また公用車のリース、電力の入札導入により、電気料の削減を図っていきます。具体例としましては、統計はえばる等の電子化等により、40万円の削減があります。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 新たな財源については、町有財産の有効活用をした新たな自主財源と記されていますが、具体的に教えていただけますか。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 お答えします。新たな財源の町有財産の有効活用ですが、機能を失った里道等の売却、町が保有する未利用地の売却や貸し付けの検討、黄金森公園については、ネーミングライツの導入と自主財源の確保に取り組みます。例としましては、津嘉山区画整理地内にある町有財産を民間事業所へ駐車場として貸し付けし、年間462万6,000円の歳入を見込んでいます。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 今、さまざまな課題の状況を説明していただきました。今質問したのは、全て中期財政計画で掲げている内容ですので、町民の皆さんにこういった努力をしていく、そういったことを、答弁の分析は後でしますけれども、町民の皆さんに知らせたい、そういう趣旨からお伺いをしました。是非とも、今言った内容、第3次財政健全化計画にも引き継がれていると思いますけれども、3点目に移ります。

今、進めてきた中期財政計画も、やはり一番の問題点については、最後に言った財源の確保だと考えます。前に質問で述べた3点について、私なりに提言をしたいと思いますが、そ

れぞれについて見解をお答えいただければと思います。まず1点目の国保の赤字解消ですけれども、保険料の値上げについては、やむを得ないものだと私も理解をしております。しかしながら、先ほども言いましたとおり、説明が不十分と言わざるを得ません。税額が低くなる可能性がない以上、納税者の立場に立って、しっかりと根上げですと説明をすべきだと思います。赤字解消の具体的な取り組みとしては、現在ありますとおり、社保加入へ移行できる保険者がいないのか、さらに調査を進める。また、保健師と保健指導、非常に有効だと思います。それを倍にふやすとか、人数をふやす、そういった積極的な対応、またジェネリック医薬品についても記述がありますけれども、その効能や効果、しっかりと紹介をして、町の財政試算と合わせて、皆さんの利用がジェネリックに変わるだけでどれだけ変わります、そういった説明をすべきだと思います。いかがお考えでしょうか。

○議長 知念富信君 国保年金課長。

○国保年金課長 高良星一郎君 お答えします。国保税の税改正説明につきましては、平成31年2月から、町の広報はえばるに、グラフや新旧対照表などを用いて、わかりやすく説明しております。2月号から6月号まで、合計5回、5カ月連続掲載して説明しています。またホームページにも同様に、わかりやすいようなグラフを用いて説明しております。また今回、窓口での国保税の相談を見てみますと、税改正による、税改正を根拠とした窓口の件数が、ほぼなかったことから、町民に対しては十分説明が浸透していると考えています。

次に、社保加入へ移行できる保険者につきましては、国保の適用適正化事務の中において、日本年金機構からリストをいただいて、協会けんぽ対象者については、国保を喪失するよう促す取り組みを行っております。

次に、保健指導につきましては、本町の保健指導率は県内でも上位に位置しております、この保健指導につきましては、今後とも継続して取り組んでまいります。

最後にジェネリック医薬品の効能、効果につきましては、沖縄県全体の傾向なのですが、ジェネリック医薬品に置きかえることができる医薬品につきましては、その使用率が、沖縄県は47都道府県で1位にありまして、南風原町も沖縄県と同水準を維持しています。以上のことから、ジェネリックにつきましても、本町の被保険者は十分活用している。またこれも引き続き取り組んでまいりますし、また、ジェネリックにつきましては、窓口で被保険者証を交付する際には、説明した後、シールを張ってお渡しするという通して、なるべく多く使用するように取り組みを行っております。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 繰り返しになりますが、釈迦に説法ですけれども、引き続きやっているものはやってくれという提言ですので、是非ともお願いします。また、第3次財政健全化

計画にも反映されている部分は、そこもお知らせいただければと思います。

次に、2点目の歳出削減についてですけれども、まず、人件費です。着目すべきは、残業の削減であって、人の削減であってはならないと思います。会計年度任用職員においても、南風原町については適正な移行が行われたと思いますが、業務の見直しや効率化については、やはりもっと見える形でやってほしい。さらに、投資的、町が発展するために必要な投資的なマンパワーが減らないことが必要だと考えます。建設事業については、まず1番に、先ほどもあります投資的な効果、これをつくることによってどういった産業が生まれる、そういったことを財源化も含めて数値で示すべきだと思います。また、扶助費の見直しについては、これまで積み上げてきた歴史があります。それを削減する場合、素直に我慢をしてほしいと。財政状況だからしょうがない、こういう説明は必要だと思います。さらに、補助金の適正化についても、繰り返しですけれども、さまざまな団体があります。その方々の役割が終わったのかどうか、これからも、町の発展のため、協働のまちづくりのために、頑張っていていただく、そういった効果がないのかどうか。そういった検証が先で、その上で、その検証をその対象者の方々にも示していくべきだと考えますが、いかがでしょうか。お答えください。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 お答えします。人件費の抑制については、効率的な組織編成や職員配置を行うことにより、住民サービスの低下につながらないよう努めてまいります。普通建設事業費については、事業の目的、効果、緊急性、重要性を精査し、優先順位をつけて事業を実施していきたいと考えております。扶助費については、他市町村で実施していない既存の町単独事業について、内容を精査し、事業の廃止や見直しを行います。また、他市町村と支給条件が異なる事業についても、内容を精査し、見直しを行いたいと考えております。各補助金についても、補助金が長期固定化されることのないよう、目的、効果、重要性を精査し、随時見直しを行いたいと考えております。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 たくさんありますので、個別には言いませんけれども、次に3点目です。

新たな自主財源の確保についてです。ネーミングライツや里道の処分など答弁をいただきました。しかしながら、繰り返しになりますけれども、やはり自主財源の中で、町の使う財源、どのように投資をして何が戻ってくるのか。現在、土地利用の見直しも進められています。そこから生まれる税収と財政効果を、試算を、まずあるべきだと思います。また、入札発注に関しても、町内企業優先と言っております。町内企業それぞれの納税額や、町内従

業員による納税額、固定資産税と、どのように生み出しているのか、分析すべきだと考えます。これまで、分析できるという答弁をいただいています。その中で、どのような町内企業を優先していくべきかが見えてくるのではないのでしょうか。

次に、財源の問題です。依存財源を見直さなければなりません。特に建設事業に言えますけれども、補助率ありきではなく、何を生むのか。投資効果を優先すべきです。望むものが実現するかのようなミスリードを、決してしてはいけません。国・県の支出金の内訳の分析や、交付税措置にまどわされない借金を抑制すべきであると考えます。いかがお考えでしょうか。お答えください。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 お答えします。参入する企業の形態によって変わってくるため、税収の試算はできませんが、土地利用を見直し、企業誘致を推進することは、法人町民税、固定資産税等の税収が見込め、財政基盤が強化されるとともに、地域活性化にもつながると考えております。なお、企業誘致を優先する、企業を選定するための町内企業の個別の納税額や固定資産税の情報は、目的外使用になるため、分析はできないと考えております。普通建設事業の実施については、先ほどの繰り返しになりますが、事業の目的、効果、緊急性、重要性を精査し、優先順位をつけて事業を実施していきたいと考えています。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 さまざまな私なりの提言ですけれども、できるもの、できないものがあると思います。しかしながら、やはり財政を立て直していかないといけない、町民に説明していかないといけない、そういったことがこの質問の趣旨ですので、ぜひとも進められるもの、丁寧に説明をしながら進めていただきたいと思います。

最後に申し上げますが、先ほども寛諄議員の質問にもありましたが、ミスだったり、不祥事による無駄な財政負担は決してあってはなりません。今回、職員の懲罰、懲戒処分が出されました。とても残念なことであります。しかしながら、責任の所在を明確にし、町民の納得する処分が行われなければ、行政に対する信用も理解も得られないものだと考えます。今回の事件では、残念ながら、新たに発生した費用もあります。その処分内容もそれぞれによってあります。そういったところを、町民に理解できるように説明していただきたいと思います。いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 今回のミスにつきましては、大変申しわけございません。町民の皆様にもお詫び申し上げます。今後はこういったことがないように、また、説明責任を十分果たして、行政運営をしてまいりたいと考えております。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 処分についてもホームページでは公表されていますし、これまで、なかなかそこまで踏み切ってこれなかったのを明確にしたという点では、私も評価をしています。しかしながら、この逼迫した財政状況の中で、新たな負担がふえている、そういったミスによって費用負担が生じている。これは確かなことですね。去る議会の中で私も質問をしましたが、そのことについても、やはり費用負担、減らすべきところを減らすだけではなくて、ミスをしました、これだけ費用が発生しましたと、そういうこともあわせて説明するべきだと思います。その点についていかがでしょうか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 臨時議会、また今回の議会、また全員協議会等にて、民生部長から、多分金額については説明があったかということで認識しております。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 説明は確かにあったと思います。私も聞きましたし、答弁もいただきました。でも、繰り返しですけれども、やはり町民の皆さんにわかっている、聞かれたから答える、そういう姿勢ではだめじゃないですか。やはり負担を求めている、削減を求めている、そういうところをともに共有して、それが協働のまちづくりと思います。やはり町民の皆さんにも費用負担が出ている。それは私たちも、議会の役割ですから、明らかにしようとする。でも、行政もその立場として、生まれた費用負担については説明する、そういった姿勢でいいかということを知っている、それについてお答えいただきたいと思えます。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 今後も、町民へのわかりやすい説明について心がけて行ってまいりたいと考えています。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 ともに、私たち議会も、町民への説明責任を持っているわけです。是非ともそういった姿勢を持って、ともに取り組んでいければとお願いを申し上げます。

大きい3点目に行きます。2・24県民投票の結果をどう考えるかであります。2019年2月24日に行われた県民投票から1年余りが経過いたします。しかしながら、県民投票が行われた直後から、民意を無視した土砂投入は強行され、ふくらみ続ける予算や工期、軟弱地盤による影響までが明らかになりました。また、議会においても辺野古新基地建設をめぐる陳情が寄せられていますが、1年近く継続審議とされ、いまだ本町議会の意思を示すには至らない状況にあります。そのような中でも、県民投票で示された本町の民意は、粘り強く辺野古新基地建設に反対を続けております。今回、新たに提出された陳情も、この1年を振り返り、町民県民が示してきた民意に、私たち政治がどう答えるのかということが投げかけられているように感じます。その観点から町長に見解を伺います。昨年2月24日に実施された「辺野古米軍基地建設のための埋立ての賛否を問う県民投票」の経緯と結果について、町長の見解を伺います。2点目に、県民投票で示された民意に対し、町長はどのように行動したか、また今後どう取り組んでいくのか。町長の言葉で示していただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項3点目の2・24県民投票の結果をどう考えるか。(1)についてお答えします。県民投票の経緯については沖縄県知事に対して直接請求に必要な有権者の署名が集まり、県議会にて可決を経て県民投票が実施されました。結果については、新基地建設反対の民意が示されたものだと考えます。

(2)についてお答えします。民意は既に示されており、今後は県民投票の結果を踏まえて、政府と沖縄県において協議がなされると考えております。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 それでは経緯についても触れていただきました。その中で、その経緯をどう考えるかというところで、直接請求に必要な署名、これは県内でも多くの若者が街頭に立ち、署名活動で県へ直接請求をしました。予想を上回る署名数が集まって、県が条例制定をします。そういった中で、県内8市町村では、この議会において投票予算が否決されました。さらに5市が県民投票の不実施を表明しました。そういった中で、ハンガー・ストライキを行う青年があらわれるなど、さまざまな状況を鑑み、県議会が三択案へと条例を修正しました。結果、全市町村で県民投票が実施され、その民意が示されたと思っております。町長、この経過を見ると、議会や首長の選択、そういった意思が大きく住民の選択を左右すると私は思いますが、町長、どのようにお考えでしょうか。

○議長 知念富信君 町長。

○町長 赤嶺正之君 それではお答えいたします。ただいま仁士議員がご質問なさいましたように、8市町村が実施しないとか、予算化しないとか、あるいはまた5市がそういうことだったということは、私も承知をいたしておりますけれども、本町といたしましては、やはり県議会のほうでそういったことが決まったということがもうわかっておりますので、当然それは予算化すべきだし、またきちんと実施すべきだと。実際、そのようにやってきたつもりでございます。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 町長のおっしゃるとおりです。南風原町は、粛々と県議会の議決のとおり、また条例が変更されてもそのように実施してきたと。それは行政事務として適切だったと思います。この県民投票に、さきに述べたとおり、多くの署名が集まるなど、たくさんの県民の皆さんの思いが込められているものだと思います。私も、投票だったり、その投票を呼びかける活動においても、県内で、理不尽に分断をされているさまざまな立場の方々が、是非とも、これを機会に、この民意に寄り添った対応で、国が考え方を改めて、問題が解決されるものだと、なってほしいという思いで私も投票に取り組みました。町長、それなりに事務執行はありましたけれども、町長もさまざまな思いで票を投じたとは私は理解しています。どのような気持ちで投票に臨まれたか、教えていただければ幸いです。お願いします。

○議長 知念富信君 町長。

○町長 赤嶺正之君 お答えいたします。県民投票に向けての考え方と申しますか、どのように投票したかというのは申し上げられませんが、当時の私の気持ちといたしましては、やはり去る大戦は、日本国内でも唯一地上戦が行われたのが沖縄県でございます。そういうのは、私はまた青年の時分からいろいろと話を聞いておまして、それからまた、私の母親は、戦争当時は南部の自然ごうの中を逃げ回ったという経験者でございまして、中学ぐらいのときから、よくそういった話を聞かされております。父親は兵役についておりますので、復員した後、我々が物を思うときから、一切戦争の話はしませんでした。しかしながら、それとはまた丸反対で、本当に語り部のごとく、母親はそういった話をしてまいりました。そういう経緯があるものですから、この県民投票にもそういった思いで投票に行ったのを思い出しました。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 質問しているのは、私たち政治がどう答えていくか、また町長を初め、行政機関や私たち議会の意思というのは、その町民の選択、そこにも大きく影響する、そういう趣旨で申し上げております。町長は、繰り返し、その民意は反映されるべきだと答弁されています。町長自身も、何かしらの方法で、是非とも南風原町の民意についても何か語りかける、行動する、そういったことが求められるのではないかと。もちろん私たち議会議員も、当然そのような責務があると考えております。どうお考えでしょうか。お答えいただければありがたいと思います。

○議長 知念富信君 町長。

○町長 赤嶺正之君 仁士議員がご質問なさるとおり、民意は反映されるべきだということをご答弁いたしております。今でもそう思っております。しかし、町民の皆さんに何らかの意思表示をとることがございますけれども、私は私なりに、例えば、5・15の行進のときとか、歓迎のときに、そういう気持ちでもってお話しも挨拶もしておりますし、そのあたりはご理解いただきたいと思っております。ただ、一市町村で特別にこの時間を設けたり、機会を設けて、町長のそういう話をするというのは、なかなか機会をつくりにくくて、それよりも、私の場合は、先ほど仁士議員からご質問をいただいた財政の問題とか、あるいはまた待機児童の問題、これから保育園をどのぐらいつくらないといけないのかとか、そういうより身近な課題がありまして、そのことが頭の中でいっぱいございまして、なかなか県民投票に関する事柄を、町民の皆さんに説明する、それを、特別に機会を設けてというところまでは、まだいっていないということ、まずご理解いただきたいと思っております。2期、3期続けて、そういうものもできるぐらいの時間的な余裕が出てきたら、また改めてそういうお話も、相談もさせていただければと思いますけれども、現段階では、目の前の課題、それに対応するので精いっぱいということをご理解いただきたいということでございます。以上です。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 今の答弁の内容も2点目に移っていますけれども、町長、今お答えいただいていることも非常にいい機会だと私は思っています。町長は以前、町村会だったり、全県的な動きがあれば参加したいと答弁されています。しかしながら、結果としては、私たち議員と違って、町長には莫大な公務があります。そういったことで理解もできますけれども、公務、政務、そしてさまざまな政治活動を行う政治家として、町民には町長のことを示していただきたいと思っております。その中で例えますと、前町長においては、島ぐるみ会議南風原の共同代表として名前を連ねていらっしゃいました。2015年8月1日の設立総会では挨拶もされております。現赤嶺町長にも、引き続き共同代表への打診があったと私は聞いてい

ます。町長は何度も建白書の堅持を表明されていますけれども、せめて運動に名前だけでも連ね、町民と共に歩むことも必要だと私は考えますが、いかがお考えでしょうか。お答えいただければ幸いです。

○議長 知念富信君 町長。

○町長 赤嶺正之君 お答えいたします。確かに、県民会議と申しますか、町民ぐるみのこの会の皆様方から要請がございました。その時点ではまだ就任間もないということもございまして、考えさせてくださいということで、時間がたってしまって、それから正式に現段階では、お受けできませんということ連絡した経緯がございます。私も、この県民投票の件も含めまして、先ほど来、議員がご質問なさるように、民意を尊重すると。それに寄り添うというお話も答弁もしてはいるのですが、申しますのは、2013年ですか、建白書に関する東京行動ですね。あれを見ておりまして、非常に感動したのを覚えております。ああいう形で、それを各市町村が、41市町村がそれぞれの市町村でそういったものを結成して、町民大会、市民大会を立ち上げてまして、それを網羅して、構築して行って、東京大行動に移ったと私は認識しているのですが、そういうことであれば、やはりこれは県民投票の趣旨にも沿いますし、町民と一緒にあって、南風原町を代表して一緒に行動すると。それは十分考えないといけないだろうということは、従来からそういった思いでございます。是非、全県的な行動が発生することを願っているということで、ご理解をお願いしたいと思います。

○議長 知念富信君 8番 照屋仁士議員。

○8番 照屋仁士君 この2・24から1年以上がたって、県民、新基地について反対の方も、賛成の方も、さまざまな立場で疲弊していつている。是非とも県民同士の争いや、そして主張の違い、何とか早く解決してほしい。そういった思いで、この南風原町においても毎週街頭に立ち、毎週ゲート前に行く、そういった方々がいらっしゃいます。私も全てに参加できているわけではありませんけれども、やはり行政のトップである首長、そして私たち議員もその行政、実務の実行だけでなく、そういった政治的な判断、町民の思いに寄り添う、そういった立場が求められているという観点から、この質問を取り上げました。きょうは、町長の思いも聞く機会をいただきまして、改めて感謝を申し上げますが、やはり、日本政府と沖縄の問題、さまざまな課題、足元から一歩ずつ解決していけるように、地道に活動している人たちとともに、これからも頑張っていきたいということとあわせて、町長にもできるご協力があれば賜りたいと思います。そのように申し上げて、一般質問を終わりたいと思います。

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午後2時26分）

再開（午後2時36分）

○議長 知念富信君 再開します。

通告書のとおり順次発言を許します。5番 金城憲治議員。

〔金城憲治議員 登壇〕

○5番 金城憲治君 5番 金城憲治、よろしく申し上げます。それでは一般質問を始めていきたいと思ひます。一括で質問させていただいて、一括で答弁をお願いしたいと思ひます。再質問から一問一答でお願いしたいと思ひます。

それでは質問、本町の、学校安全管理体制について伺ひます。（1）本町の学校安全管理体制はどうなっているか。（2）本町の学校及び公共施設内でのハブ対策はどのように行われているか。（3）本町の学校及び公共施設内でのハブの捕獲状況はどの程度か。以上、お願いいたします。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 質問事項、本町の、学校安全管理体制についての（1）についてお答えいたします。各学校における安全管理体制は、各学校で緊急時マニュアルを策定し、校長、教頭、教職員がそれぞれの役割に基づき対応できる体制をとっております。

（2）でございます。学校施設においては、ハブ対策として定期的な清掃や草刈り、施設周辺の資材や廃材などの整理を行うとともに、必要に応じてハブ捕獲器を設置しております。

（3）でございます。学校施設においては、令和元年度に南星中学校で12匹のハブを捕獲、北丘小学校で1匹のハブが捕獲されております。以上でございます。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 ご答弁ありがとうございます。それでは再質問に入っていきたいと思ひます。まず、（1）の各学校で緊急時マニュアルを策定しているということですが、その緊急時マニュアルですが、どのような場面を想定して策定されていますでしょうか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。学校の緊急時マニュアルに関しては、

不審者だったり、事件、事故だったり、今回のハブのようなものですね。あらゆる緊急時に
対して、連絡体制を整えるようなマニュアルになっております。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 それでは、教育委員会は学校で危険生物、ハブになりますけれども、
捕獲されている現状を把握されていましてでしょうか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。今回、申しあげました12件全てにつ
いては、把握、全てこちらのほうに報告はございませんでした。数件はこちらのほうに、捕
獲があったと聞いております。学校のほうにおいては、住民環境課に連絡をとって、捕獲器
を借りて設置したりとか、そのような対応をしております。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 やはり今の答弁にもあったように、なかなか緊急時、不審者がほとん
どのマニュアルになっているのかなと思われます。もしそうであれば、やはり危険生物に対
しても何らかの緊急時マニュアルというものも策定されたほうがいいのではないかと思
います。例えば、ハブを捕獲される部署は、住民環境課と聞いておりますけれども、住民環境
課では、学校内でハブが捕獲された場合は、関連部署との情報を共有する体制とかはないの
でしょうか。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん お答えします。捕獲器の貸し借りは、各個別の学校対住民
環境課になっております。捕獲されたら、学校のほうから直接住民環境課にありますので、
こちらが取りに行きます。ただ、教育委員会のほうには連絡しておりませんが、こちらとし
ては、学校から直接連絡がいつているものと思っておりましたので、その連携が取れていな
いのがわかりましたので、今後は連携を取りながらやっていきたいと思います。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 答弁ありがとうございます。やはり、学校側だけが把握しているとか
という現状があるかと思われます。やはり今後は、安心安全が問われる学校で、先ほどの答

弁でもございましたように、ハブが捕獲されている現状から、今後は学校と関連する部署での報告や認識ができる体制づくりが必要になるのではないかと思います。学校における危険生物に対する緊急時マニュアルの作成も、要望したいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 学校のほうでは、先ほどの緊急時マニュアルもそうですが、学校全体の安全計画等を策定することになっていまして、先ほど、学校教育課長の説明もありましたが、さまざまな状況に応じたマニュアルを作成するということになっています。その緊急時マニュアル一つだけではなくて、疾病も含めていろいろな計画がございます。今回の部分については、学校のほうで直接先生方が捕獲した2匹のハブについては情報があったのですが、捕獲器で捕獲された部分についての確認とか連絡が漏れていました。その辺、ご提案のように、詳しいところを含めて、各生徒の安心安全を確保できるような形での連絡体制を築いていきたいと思っております。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 すごく前向きなご答弁ありがとうございます。是非ご検討していただきたいと思っております。

それでは(2)に移りたいと思っております。学校でのハブ対策としては、ハブが寄りつかない環境づくりを心がけていると感じます。これは学校以外の公共施設も同じ取り組みになるのでしょうか。また、ハブ捕獲器以外の対策はないのでしょうか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。学校におけるその他の対応ですが、学校によってはハブネットを設置している学校もございます。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 今のハブネットですが、どちらの学校で張られているのでしょうか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん 現在確認したところ、南風原幼稚園、北丘幼稚園、北丘小学校で設置しております。

[金城憲治議員より「休憩願います」の声あり]

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午後2時45分）

再開（午後2時45分）

○議長 知念富信君 再開します。まちづくり振興課長。

○まちづくり振興課長 金城政光君 公園についてお話いたします。公園については、ハブの目撃情報がありましたら、草とかが生えていましたら除草等を行って、同じくハブ捕獲器の設置とか、あるいはまた危険箇所については、出そうなどころについては、看板等の設置を行っております。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 ありがとうございます。必要に応じて、ハブ捕獲器等を設置しているということですが、町独自で、危険箇所とか把握して設置しているものなのか、もしくは要望があった場合に設置しているものなののでしょうか。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん お答えします。要望があった場合に、捕獲器の貸し出しをしております。相談があった場合は、環境整備をお勧めしています。きちんと草刈りとか、ネズミとかそういったものが近寄らないようにきれいにしてくださいと。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 ありがとうございます。そのハブ捕獲器ですけれども、常時貸し出しできるという状況なののでしょうか。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん 捕獲器は80台あります。現在貸し出しているのは15台で、うち2台が南星中学校、残り13台については一般家庭に貸し出しております。まだ在庫がありますので、要望がありましたら貸し出しは可能ですので、是非住民環境課にご相談

いただきたいと思います。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 このハブ捕獲器ですけれども、おとりの必要な捕獲器が20台ということになるのでしょうか。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん 捕獲器80台は、中に生きたネズミ、トラップと言いますけれども、それが入っております。生きておりますので、これはハブの餌ではありません。おびきよせるためのトラップになりますので、生きておりますので、餌とか水やりがありますので、捕獲器を借りた方は、その飼育までしていただくことになります。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 常時、このトラップのネズミはいらっしゃるのですか。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん ネズミもこちらで準備しておりますので、いつでも補充はできます。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 それを聞いて安心しました。要望があつて、おとりがないので捕獲器の貸し出しができませんという状況はないと理解をしました。それでは、ハブがよく捕獲される場所を把握しているようであれば、危険マップの作成とか、そういった周知等の取り組みなどは行っていますでしょうか。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん ハブがよく出現する場所には「ハブに注意」の看板を、要望に応じて設置しております。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 南星中学校のほうにもハブの立て看板がよくあります。もしハブがよく出没するとか、そういうのを把握されているようでしたら、今後そういった危険箇所のマップであるとか、そういった周知活動、先ほどありましたハブの捕獲器ですけれども、いろいろと調べましたら、おとりの要らないトラップも一応あるとありました。もちろんハブが壁沿いから歩くという習性を利用した、壁に置くようなものにはなるのですが、おとりをするための学校側での飼育であったり、そういった手間暇が省けたりするような捕獲器になるかなと思いますので、そういった活用も含めながら、是非今後検討していただきたいと思います。

それでは次の質問に入ります。過去、南星中学校が12匹、北丘小学校で1匹、ことしはハブが捕獲されているとなっていますけれども、過去3年間ではどういた推移になっているのでしょうか。

○議長 知念富信君 住民環境課長。

○住民環境課長 宮城広子さん 過去3年の分をお答えします。平成29年度は、中央公民館文化センター周辺で13匹、黄金森公園が18匹、南星中学校が5匹、南風原中学校が1匹、北丘小学校が1匹、その他一般家庭が22匹で、60匹になっております。平成30年度は、中央公民館文化センター周辺が5匹、黄金森公園が8匹、緋会館が1匹、南星中学校が4匹、一般家庭が14匹、計32匹となっております。以上です。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 ありがとうございます。いろいろな公共施設で、毎年捕獲されているという現状があるのかなと認識いたしました。とりわけ、南星中学校におきましては、これだけ確保されている現状をどう考えていますでしょうか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。今回のご質問を受けまして、やはり南星中学校での捕獲が多いということも、私たちは認識いたしましたので、これについて、また再度学校と話し合いをしながら、可能な措置について話し合っって対応してまいりたいと思います。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 すごく前向きな答弁ありがとうございます。今回、要望といたしまし

て、学校という施設内において、これだけのハブの捕獲があるという事実から、生徒または教職員の方々、そして夜間においては一般の方々が、体育館や運動場を利用しています。それらの全ての方々の安全を確保する必要があるのではないかなと思います。侵入を防ぐために、ハブネットを活用したり、既に大里南小学校においては、学校のフェンスにハブ侵入防止フェンスを設置したりしています。本町においても対策を講じる必要があるのかなと考えています。それだけでは、確実に校内への侵入が防げるとは言えないと思います。やはりどうしても、最終的には各個人が目視をして、自己防衛ができる必要があるのではないのでしょうか。南星中学校においては、最も捕獲が多い場所の正門付近の外灯であるとか、職員駐車場においては、外灯が切れたままであったり、もしくは外灯が設置されていない箇所など、夜間においては目視できる明るさがないのが現状です。せめて、学校が開放されている間は、危険箇所においても目視できる明るさを求めたいと思います。是非、子供たちの安全、教職員の安全、町民の安全を確保するための対策を、前向きに検討してはいただけないでしょうか。いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。危険生物の対応につきましては、議員のおっしゃられるとおり、施設面、ネットや捕獲器の設置、フェンス等の設置もあります。あわせて、おっしゃられたとおり、子供たちへの教育とか、連絡体制の整備、その全てが重要であると認識しております。ご質問のありました正門から入って、数メートル進んで左側には、新年度のほうで外灯を設置する予算を計上しております。それ以外の職員駐車場近くだったりとかにつきましては、予算の兼ね合いとかもございまして、現場を確認いたしまして、可能なところから対応できるようにやってまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長 知念富信君 5番 金城憲治議員。

○5番 金城憲治君 すごく前向きに答弁していただきありがとうございます。是非、子供たちが安心して勉強できる環境づくりに協力していただけたらなと思っています。それでは私の一般質問をこれで終わります。以上です。ありがとうございました。

○議長 知念富信君 以上で本日の日程は、全部終了しました。本日は、これにて散会します。お疲れさまでした。

散会（午後2時56分）